

札幌市立大学

研究・活動事例集

2026



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学

研究・活動事例集

2026

札幌市立大学は、デザインと看護の2学部、2研究科、看護学専攻科を設置し、「人間重視」と「地域社会への貢献」を基本理念に掲げ、デザインと看護の特色を活かした教育・研究・社会貢献活動に取り組んでいます。また、2022年度にAITセンターを設置し、AIとITに関する研究、デザインと看護をAIが下支えする研究に取り組んでいます。

本冊子は産学官金連携・地域連携等にさらに積極的に取り組むため、多くの方々に本学の教員の最新の研究・活動事例をご紹介することを目的に発行いたしました。札幌市立大学教員の教育・研究、地域社会との連携活動に関心を持っていただければ幸いです。

（本文中の役職は2025年度当時のものです）

研究・活動事例集 2026

I. 研究交流活動＜2025 年度 SCU 産学官金研究交流会＞(2025.11.27 アスティ 45 16 階 ACU-A 大研修室 1614)

- 02 1. 円山動物園モンキーハウスの来場者満足度向上を目指す取り組み
デザイン学部 教授 伊藤 健世
- 08 2. アートと仕方
—苫小牧市立樽前小学校改築工事を事例に—
デザイン学部 講師 藤沢 礼央
- 10 3. 頭頸部がん患者によるスマートフォンを活用した症状報告
～治療中の症状管理支援に向けた実装可能性研究～
看護学部 助教 澤口 宙人
- 12 4. ゲーム要素を活用した看護技術の検討
～血圧測定技術の減圧操作と他者評価の関係～
看護学部 助教 吉田 実和
- 14 5. 深層学習による放射線画像からの歯科口腔疾患の検出
AIT センター 助教 岡崎 昌太
- 18 6. ポスター・展示発表一覧

II. 展示会等の参加

- 22 1. 「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2025」(2025.7.23 アクセスサッポロ)
・水素アシスト型自転車タクシー『PIONIE(ピオニエ)』の筐体デザイン開発
デザイン学部 助教 榎田 聡志
- 24 2. 第 39 回 北海道 技術・ビジネス交流会「ビジネス EXPO」(2025.11.6～11.7 アクセスサッポロ)
・地域活性化のためのデジタル地域通貨(デザイン)
・話し合う性教育を実践する教材—SH カード—(看護×デザイン)
・フレイル予防のためのアナログゲーム(デザイン×看護)
デザイン学部 准教授 小林 重人
看護学部 准教授 市戸 優人

III. 地域連携・地域貢献活動

- 28 1. 公開講座開催
- 31 2. 受託研究
- 31 3. 共同研究
- 32 4. 地域貢献(地域産学連携協力依頼)
- 40 5. 研究支援地域連携センターのご案内



研究交流活動

＜2025 年度 SCU 産学官金研究交流会＞

2025 年 11 月 27 日(木)14:00～16:30 アスティ 45 16 階 ACU-A 大研修室 1614

【カテゴリー1：デザイン】

1. 円山動物園モンキーハウスの来場者満足度向上を目指す取り組み

伊藤 健世(デザイン学部 教授)

2. アートと仕方
—苦小牧市立樽前小学校改築工事を事例に—

藤沢 礼央(デザイン学部 講師)

【カテゴリー2：看護】

3. 頭頸部がん患者によるスマートフォンを活用した症状報告
～治療中の症状管理支援に向けた実装可能性研究～

澤口 宙人(看護学部 助教)

4. ゲーム要素を活用した看護技術の検討
～血圧測定技術の減圧操作と他者評価の関係～

吉田 実和(看護学部 助教)

【カテゴリー3：AI】

5. 深層学習による放射線画像からの歯科口腔疾患の検出

岡崎 昌太(AIT センター 助教)

ポスター・展示発表一覧

2025 年度
SCU
産学官金研究交流会

〒060-0004
札幌市中央区北 4 条西 5 丁目アスティ 45 16 階
会場 ACU-A 大研修室 1614

2025 年 11 月 27 日 木曜日

14 時 00 分～16 時 30 分
研究交流会
口頭発表・ポスターセッションを行います
!! 詳細は講座をチェック !!

参加費無料・入場自由

17 時 00 分～18 時 30 分
情報交流会
軽食とお飲み物を提供いたします
会場 ACU-A 多目的ラウンジ 1612
(研究交流会と同じフロア)

参加費：3,500 円/人

後援
北海道立総合研究機構、北海道中小企業家同友会、北洋銀行、北海道経済産業局、札幌市

協賛
デザイン・札幌市立大学デザイン学部人間環境デザイン学コース 教員有志

広報チラシ(表)

口頭発表

14:11 ~ 14:26
伊藤 健世(デザイン学部)
円山動物園モンキーハウスの来場者満足度向上を目指す取り組み
～治療中の症状管理支援に向けた実装可能性研究～

14:27 ~ 14:42
藤沢 礼央(デザイン学部)
アートと仕方
—苦小牧市立樽前小学校改築工事を事例に—

14:43 ~ 14:58
澤口 宙人(看護学部)
頭頸部がん患者によるスマートフォンを活用した症状報告
～治療中の症状管理支援に向けた実装可能性研究～

14:59 ~ 15:14
吉田 実和(看護学部)
ゲーム要素を活用した看護技術の検討
～血圧測定技術の減圧操作と他者評価の関係～

15:15 ~ 15:30
岡崎 昌太(AIT センター)
深層学習による放射線画像からの歯科口腔疾患の検出

ポスターセッション
15:35～16:25

参加申し込み
11/20(木)まで
https://forms.office.com/r/VQDPFUGLSL

お問い合わせ
札幌市立大学事務局 総務課事務局
TEL: 011-592-2346
E-mail: CFC@scu.ac.jp

広報チラシ(裏)

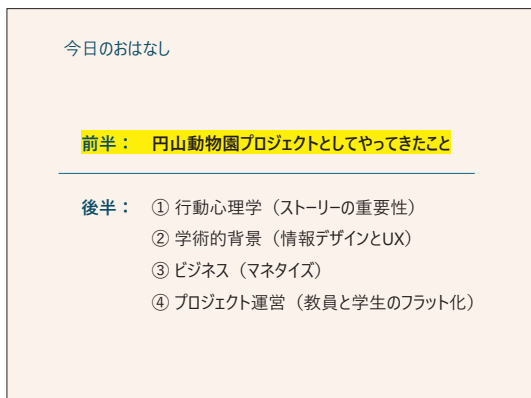
本研究では、円山動物園のモンキーハウスにおける来場者の満足度向上を目指し、空間デザインと情報デザインを掛け合わせ、来場者にとって新しい見学体験の創出に取り組みました。展示をより深く理解し楽しめるよう、一貫性のあるストーリー性を持たせた提案とその運用方法の検討を行いました。



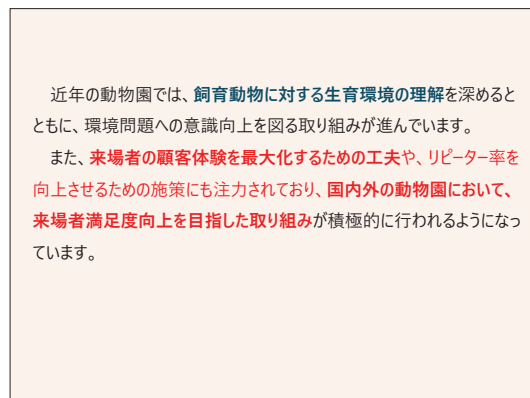
01



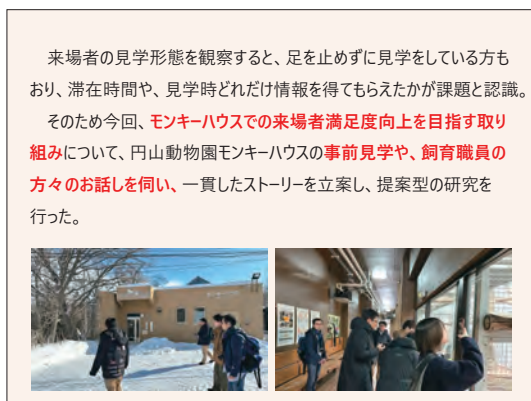
02



03



04



05



06

来園者だった時の気持ちを思い出してみると？

初めて動物園にいった時の感覚

そこにはどんな記憶がありますか？



07

そこにある記憶は様々だろうと思います

音	匂い	美味しい
楽しい	緊張	疲れた
可愛い	怖い	

そこから生まれるのは

おどろき **感動**



08

原点回帰



09

動物を見ていると、
動物も同じ地球上の生態系として存在しているのに、
普段の我々の「人間中心」の世界にいることの不自然さを、
動物園では思い出させてくれる。

しかも人間は、猿と同じ霊長類なのに、例えば危険察知能力も
低く脆弱であることにも気づかされる。

10

そうです。ここ「動物園」は、人間だけの場所ではなく
動物たちの居住空間である事がメイン



動物福祉におけるエンリッチメント：
動物の幸福度と健康を向上させるため、飼育環境を豊かにし、動物の本来の行動を促す工夫



11

エンリッチメントを念頭に
同じ生態系の環境で野生を感じながら、
より身近に動物を知るために必要な考え方は

Animal Centric

動物中心の視点



12

Animal Centric

動物中心の視点

その概念となるのは
見る側、見られる側 という人間中心だけではなく、
その垣根を取り払い **動物中心の視点** で見学を楽しめるような空間

今までにない新しい体験になるはず

新しい体験：
つまり、遊園地のようなエンターテインメント性ではなく、
動物との共感、生態系環境を知る、動物の頑張りと強さを知るといふ楽しさ。
(人は未知のことを知りたい、知ることも喜び)

13

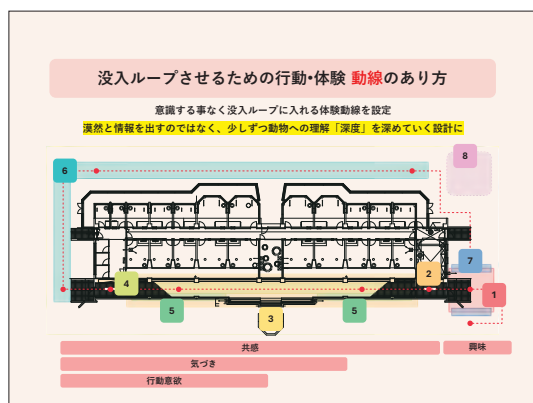
没入していただくための体験動の**流れとループ**の関係

興味を持ったことをきっかけに、意識せずにループの輪に入れる体験進行
→ 個々のアイデアは、学生主体で取り組み。

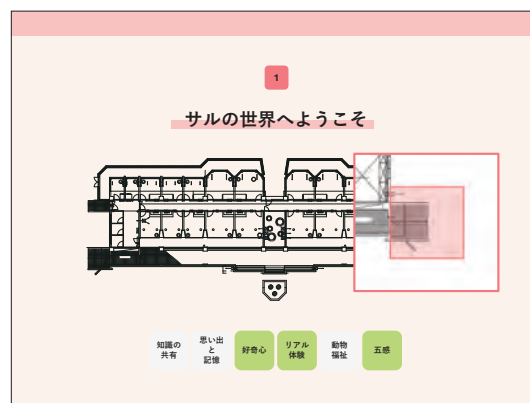
1	没入	サルの世界へようこそ
2	情報	モンキーNews
3	体験	モンキーの家
4	知識	モンキースゴロク
5	観察	なりきりモンキー
6	比較	Walkingモンキー
7	共有	Posing Monkeys!
8	記憶	思い出帳

興味 → 共感 → 気づき → 行動意欲

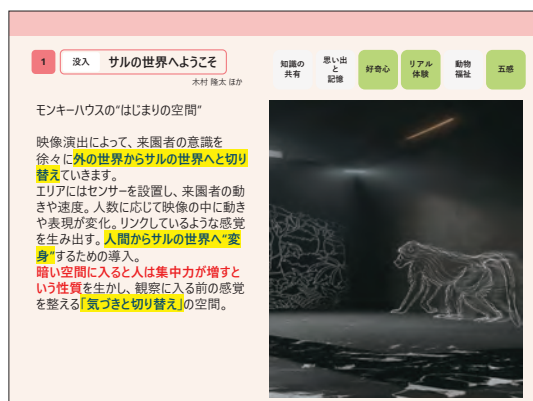
14



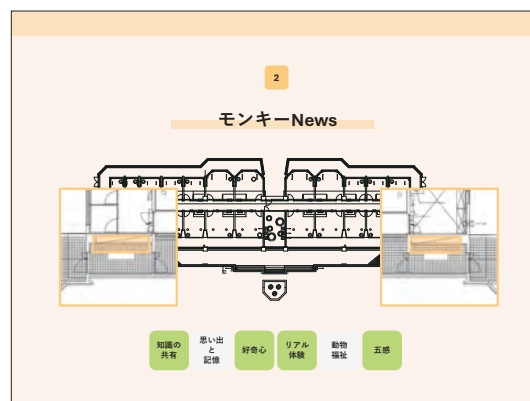
15



16



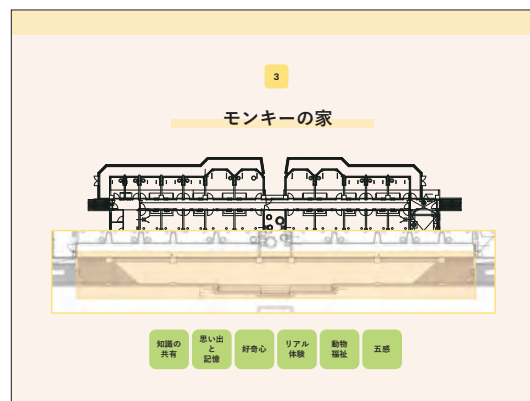
17



18



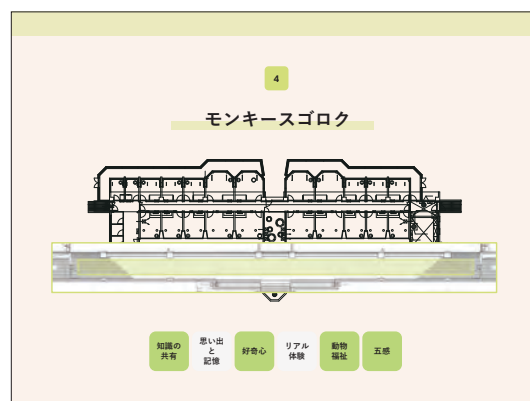
19



20



21



22

4 知識 モンキースゴロク 佐藤 楓佳

知識の共有 思い出と記憶 好奇心 リアル体験 動物福祉 五感

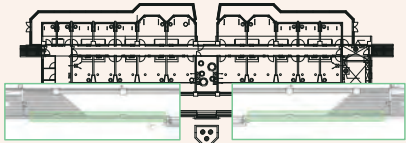
情報デザイン：
モンキーハウスの通路を、楽しみながらサルについて学べる空間とするため、床に「すごろく」を設置します。
これはナッジ理論を応用し、遊びながら自然と知識が身につくよう工夫された仕掛けです。

文字がまだ読めない子どもや、鏡を見つけない来園者にも配慮し、地面にイラストや「マウス進む」などの指示を配置。
どの身長でも情報に触れやすく、親子や友達同士でも楽しめるようになっています。



23

5 になりきりモンキー



知識の共有 思い出と記憶 好奇心 リアル体験 動物福祉 五感

24

5 観察 なりきりモンキー 佐藤 楓佳

知識の共有 思い出と記憶 好奇心 リアル体験 動物福祉 五感

人間とサルは体の構造が比較的近く、特に「尻尾」はその違いを象徴する特徴です。サルの尻尾を模したリアルな毛素材のアイテムを腰につけて体験できる仕掛けを通して、来園者は「人間の身長で考えると尻尾はどのくらい長いのか」、「尻尾の反発力」といった感覚を体験できます。

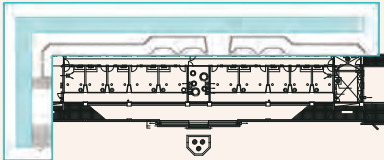
体験しながら、近くに掲示されたパネルから尻尾の役割や使用方法、種ごとの違いについての情報に触れることができ、観察の視点が深まります。

実際に尻尾をつけて歩いたり、写真を撮ったりする中で、サルの身体感覚により近づき、記憶に残る体験を提供し、サルごとの違いにも気づける学びの機会にもなります。



25

6 Walking モンキー



知識の共有 思い出と記憶 好奇心 リアル体験 動物福祉 五感

26

6 比較 Walkingモンキー

知識の共有 思い出と記憶 好奇心 リアル体験 動物福祉 五感

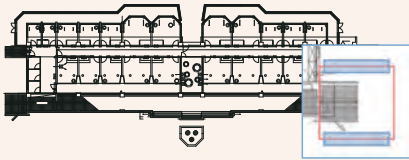
モンキーハウスの体験は屋内だけでなく、屋外エリアにも広がり、来園者が五感を使って楽しめる仕掛けがいくつかあります。たとえば、オランウータンの足の太さや歩幅を実際に体験できるコンテンツを展開。「モンキーと一緒に外まで来たら？」アスファルト上に塗装やプロジェクションで表現された、足形に沿って歩いたり、「けんけんぱ」のような遊び要素を加えることで、小さな子どもも自然に参加しやすく、身体を使って学べる仕掛けになります。

また、屋内の「モンキーすごろく」と運動するような構成することで、空間を移動しても体験の連続性が保たれ、来園者の没入感をさらに高めます。遊びながらサルとの距離を縮め、発見や学びが自然に生まれるような屋外演出になることを目指します。



27

7 Posing Monkeys! (ポーズ)



知識の共有 思い出と記憶 好奇心 リアル体験 動物福祉 五感

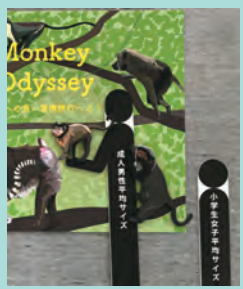
28

7 共有 Posing monkeys! 高橋 こはく、高橋 七海

知識の共有 思い出と記憶 好奇心 リアル体験 動物福祉 五感

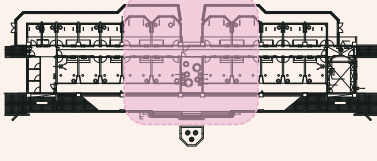
施設の内外を問わず広がりを持たせ、来園者の好奇心を刺激する仕掛けとして撮影スポットを施設の外観に設置。サル（手乗り）と並んで写真が撮れたり、動かせる演出ができたりと、入場前から気分を盛り上げる演出としても活用されます。また、施設内に設置されている「なりきりモンキー」の擬態体験とも運動も可能。

サルのしぐさや姿勢を再現したり自分の動きと重ねて楽しめる仕組みです。実際に体を動かしながら観察・模倣することで、サルの動きの意味や特性への理解が深まり、体験として印象に残る企画です。



29

8 Memory Book



知識の共有 思い出と記憶 好奇心 リアル体験 動物福祉 五感

30

8 記憶 Memory book

記憶の共有 思い出と記憶 好奇心 リアル体験 動物福祉 五感

園内体験をより深く知ってもらうための「設備マップ」小冊子。

注目は、普段は見るできない飼育エリアや動物の寝室も描かれている点。どこで寝ているの？どうやって移動しているの？といった「飼育の裏側」を視覚的に紹介することで、動物たちの日常に対する理解と関心を深めます。来園の記念や学びの資料として家に持ち帰りたくなるようなミニブックに仕上げていきます。

中には切り抜いて立体的に組み立てられたり読んでも遊べる「もっと知りたい！」を引き出す冊子です。

来園者満足の向上と、施設との新しい関係づくりを目指した冊子としての展開。

バックヤード見学：飼育員の方の、飼育に関するお話が集まりました。

31

Monkey odysseyは、サル達が暮らす環境を五感で体感しながら、楽しさの中に学びがある“体験型空間”を目指し、サルへの理解や共感を育みます。来園者が主体的に「知りたい」と感じる仕掛けを重ねることで、観察者側の視点を意識なく深め、自然や命と向き合う新たな入り口となることを目指します。

32

今日のおはなし

前半： 円山動物園プロジェクトとしてやってきたこと

後半： ① 行動心理学（ストーリーの重要性）
② 学術的背景（情報デザインとUX）
③ ビジネス（マネタイズ）
④ プロジェクト運営（教員と学生のフラット化）

試み、試行錯誤

33

① 行動心理学：人は人のストーリーが好き、また、ストーリーは体験として濃く残る！

「同じ生態系の環境で野生を感じる」という、ストーリーのような来場者にとっての新しい見学体験

没入させるための体験動の流れとループの関係

興味を持ったことをきっかけに、自然とループが絡み合う体験進行

個々のアイデアは、学生主体で作り出す

1	2	3	4	5	6	7	8
導入	サルの世界へようこそ	体験	モンキーNews	体験	モンキーの家	体験	モンキーゴロウ
体験	なりきりモンキー	体験	Walkingモンキー	体験	Posing Monkeys!	体験	悪い出版

・ディズニーランド
・個々のアイデアではない
連続性、ストーリー性

34

② 学術的背景：「情報デザイン（UI）」と、「ユーザーエクスペリエンスデザイン（UX）」

35

② 学術的背景：「情報デザイン（UI）」と、「ユーザーエクスペリエンスデザイン（UX）」

体験を予測

いつ：	なにを：	どのように：
利用前	予期的UX	体験を想像する
利用中	一般的UX	体験する
利用後	エピソード的UX	ある体験を内省する
利用時間全体	累積的UX	多種多様な利用期間を回想する

36

② 学術的背景：「情報デザイン（UI）」と、「ユーザーエクスペリエンスデザイン（UX）」

利用前 利用中 利用後

・要望の本質が見えてくる。
・オフィスや店舗のレイアウト（動きを観察）、タクシー予約アプリ（困りごとUXで解決：マップ上で車がどこにいるか可視化）

37

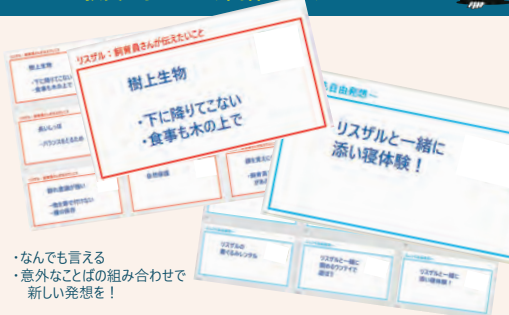
③ マネタイズ：産学官金でコラボするならビジネス視点も

エプソン、札幌にSolution Center Hokkaido
～展開型プリンターやプロジェクターを連携したソリューションを提案～

・お金以外にもWin-Winの関係に

38

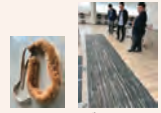
④ プロジェクト運営：
教員と学生という関係をフラットに



・なんでも言える
 ・意外なことばの組み合わせで
 新しい発想を！

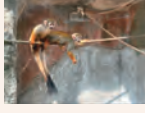
39

今年度、既にはじめている次の活動は...



- 1) モンキーハウスの仕掛け仮実装と、需要のユーザー調査
- 2) こども園のリスザル





40

Project Member  **札幌市立大学**
 SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学

研究代表者	伊藤 健世	情報デザイン、UI/UX、前職メーカーデザイナー
研究分担者	齊藤 雅也	研究科長、空間/建築
同	坪内 健	現北海道大学、空間/建築
同	吉田 彩乃	情報デザイン、プログラミング
研究協力者	木村 隆太	空間/建築デザインコース
同	佐藤 楓佳	空間/建築デザインコース
同	高橋 七海	情報デザインコース
同	高橋 こはく	情報デザインコース、現社会人

elephant design 株式会社
 伊藤 宗方 大手メーカーから多数依頼、東京から。
 岡本 あざみ

札幌市立大学
モンキーハウスプロジェクト

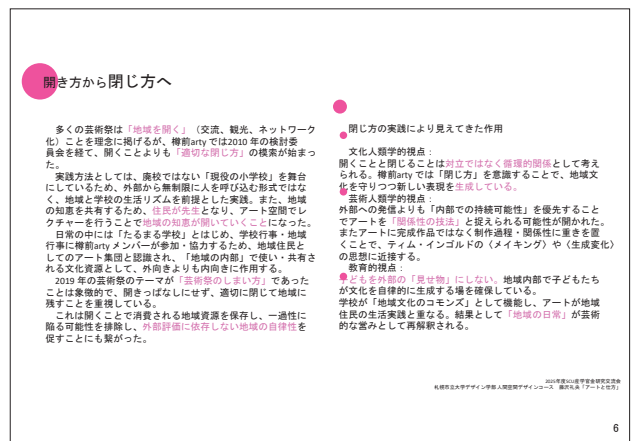
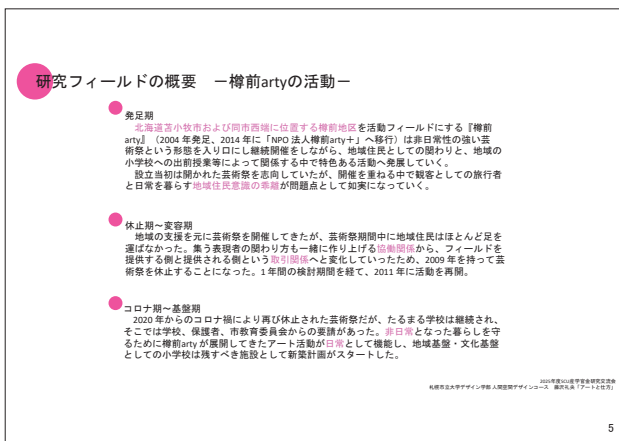
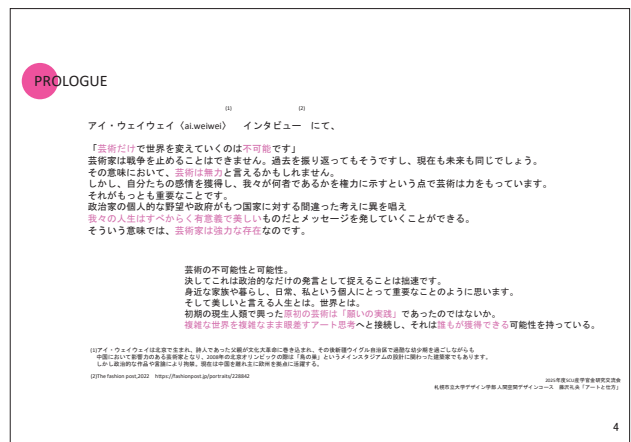
41

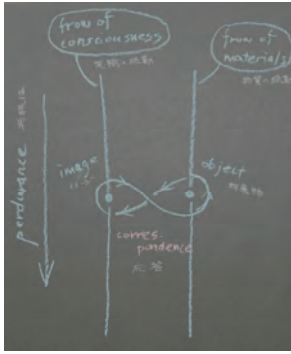
アートと仕方 —苫小牧市立樽前小学校改築工事を事例に—

藤沢 礼央

札幌市立大学 デザイン学部 講師

苫小牧市西端の過疎地域にある小規模公立小学校が校舎の老朽化、児童数の減少が顕著な中、廃校ではなく新たに建替えられることになり、新築校舎の設計・計画を地域住民、行政とともに妥結点を模索した。当地をフィールドとして行ってきたアート実践の延長線上に位置すると思われる事例として、アートが身近になっていた地域住民がアーティストと協働で地域の小学校の在り方を検討した経過を報告する。





Tim Ingold 『MAKING』 (2017/53)
 インゴルドのスケッチ根拠と発表者の追記・再構成

札幌市立大学デザイン学部 人間環境デザインコース 最終発表「アートと文化」

芸術祭の開閉思考による比較

	基本姿勢	会場	参加者	成果物	時間性	地域への作用	リスク
開く活動	外部文化・観光振興を目的に「地域を開放」	連続・空き家・野外空間 → 外から入りやすい	観光客・作品の来訪者 が中心。地域住民が「迎えを待つ」	大規模展示、観光資源、 外部への情報発信	イベント的・一過性 → 後は何も残らない	外部から地域の価値を「発見」してもらう	外部消費・観光依存
閉じる活動	外部要素を整理し「内部だけで管理」	公共館や集会所 → 閉じた共同体空間	地域住民のみが関与、 閉じたコミュニティ	内部的記録や活動報告 に留まる	内部的・継続性はある が閉鎖的	地域内部での「安心」や 「確実」に留まる	閉鎖性・外部との断絶
閉じながら開く	外部へ開くが、最終的には地域内部に文化を蓄積する	学校小中学校 → 地域の生活空間に根ざしつつ開放的に開く	児童・住民が主体、外部アーティストは共に巻き込まれる	展示・ワークショップ 活動 → 地域内外どちらも作用	「しなやか」の概念 → 閉じながら継続可能性を確保	外部の視点を入口にしつつ、内部文化を再編・蓄積化	閉鎖と開鎖のバランスが必要、後継性を生む

札幌市立大学デザイン学部 人間環境デザインコース 最終発表「アートと文化」

現在の考察

- リミナリティ的
→ 日常と非日常の境界性・越境性
- 中動的
→ 創作する主体であると同時に寛容させる存在
- 生成変化
→ 学校が教育以外にも地域拠点でありアート拠点
にもなり得る「場の再定義」が行われた

本発表は、この事例を「リミナリティ (liminality)」および「中動的 (middle Voice)」の観点から検討し、教育・芸術・地域文化を横断する新たな共同性の形を論じる試みである。

樟前artyでは、授業で日常的に使われる教室や廊下で展示や制作の場に変容し、児童は「学ぶ存在」であると同時に「表現する存在」として位置づけられる。これはファン・ヘネップやターナーが論じた「通過儀礼の移行期」に相当するリミナルな状態として考えられる。他方、参加者は「自ら作品を作る」と同時に「作品や関係性を受入れる」経験をしており、これは観覧・受動を超える中動的な自己変容の過程と捉えられる。

この視点から樟前artyを位置づけると、教育的には児童のエージェンシーを引き出す「場の場」、芸術的には制作過程や共創を重視する「場の場」、文化的には地域共同体を再編成する「モンス」の場として作用していることが明らかとなる。

すなわち、樟前artyは「リミナルな場」において「中動的な経験」が生起する実践であり、教育・芸術・地域文化を横断する共生のプロセスとして理解できる。この事例を通じて、地域芸術祭研究と実践における「リミナリティ・中動的」という理論枠組みが有効であることを提示する。

今後の課題としては、他地域における場校を含めた学校を利用した文化実践との比較、ならびに教育学・芸術人育成・地域文化論にまたがる学際的な応用可能性を検討し、地域社会や行政政策におけるアートの作用を明らかにしていきたい。

札幌市立大学デザイン学部 人間環境デザインコース 最終発表「アートと文化」

参考文献

- ティム・インゴルド 金子道 (訳) (2017) 『メイキング』 左右社 304p 415p
 ティム・インゴルド 長野実日 (訳) (2021) 『Correspondence』 展覧書房 415p
 ファン・ヘネップ (2012) 『通過儀礼』 岩波書店 384p
 ウィクター・W・ターナー (2020) 『儀礼の過程』 展覧書房 373p
 藤分一樹 (2017) 『中動的の境界・境界と文化の再定義』 展覧書房 335p
 中沢新一 (2006) 『芸術人論』 みすず書房 374p
 トニユーイ 沢村望 (訳) (2003) 『経験としての芸術』 人間の科学社 466p
 園田浩志 (2021) 『教育の平仮名』 朝倉書店 307p
 廣ひろ子 (1979) 『子どもの文化人類学』 展覧書房

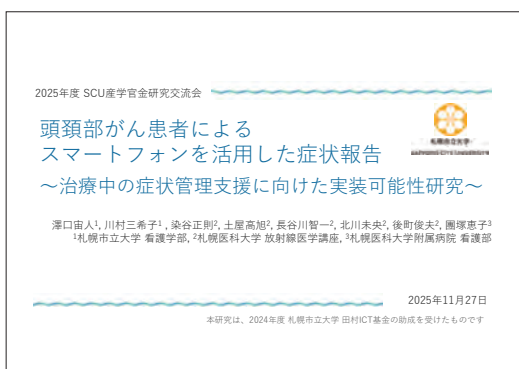
札幌市立大学デザイン学部 人間環境デザインコース 最終発表「アートと文化」

頭頸部がん患者によるスマートフォンを活用した症状報告 ～治療中の症状管理支援に向けた実装可能性研究～

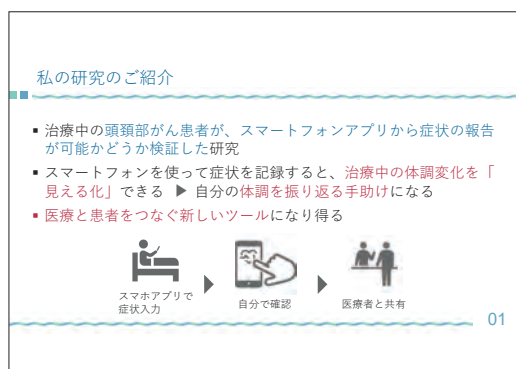
澤口 宙人

札幌市立大学 看護学部 助教

放射線治療を受ける頭頸部がん患者さんの多くは、治療中に副作用を経験します。本研究では、患者さんがスマートフォンアプリを用いて症状の重症度を報告する方法について評価しました。その結果、参加した患者さんにとって継続的な利用が可能であり、臨床実装の可能性が示されました。とくに、症状の経過が可視化されることで、患者さん自身が体調をより客観的に把握できるようになり、支援のあり方への新たな視点が示唆されました。



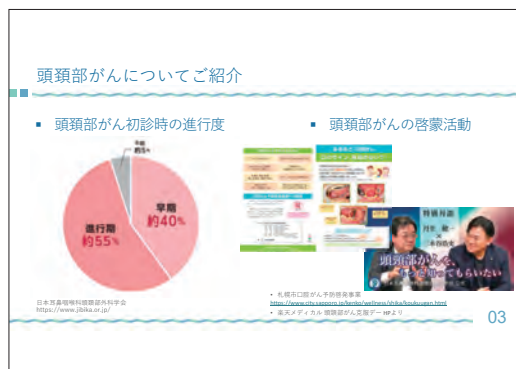
01



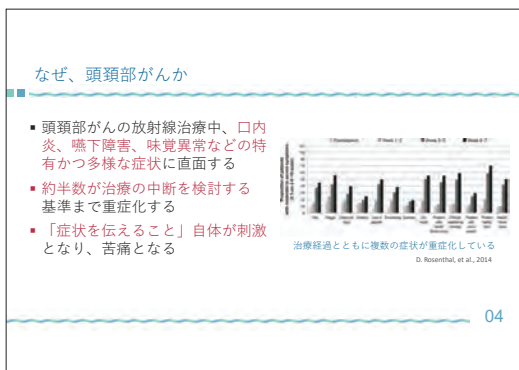
02



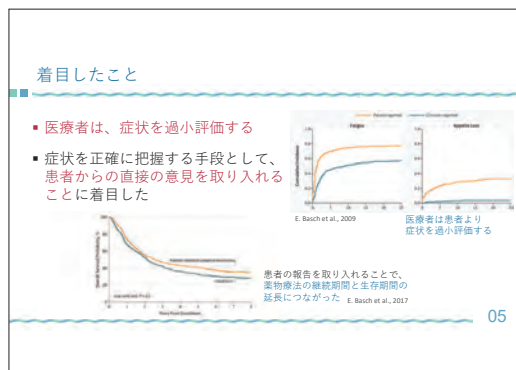
03



04



05



06

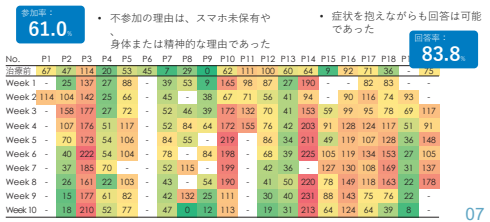
研究目的と方法

- 研究目的
放射線治療を受ける頭頸部がんが自分のスマートフォンから症状を報告することが可能かどうか実現可能性を評価した
- 研究方法
 - 放射線治療を受ける頭頸部がん患者で、スマホを持っている方
 - 治療開始から毎週1回、専用のアプリから症状の質問（28項目）に回答した（計12回）
 - 評価は、実際の回答状況（実現可能性）や受け入れ度（アンケート調査）、活用状況（インタビュー）などの視点から行なった。

06

07

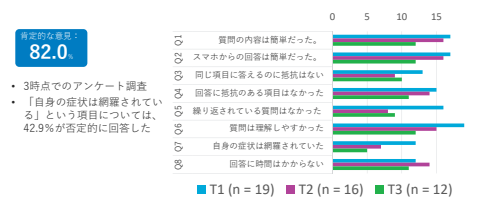
研究結果 実現可能性



07

08

研究結果 アプリの受け入れ度



08

09

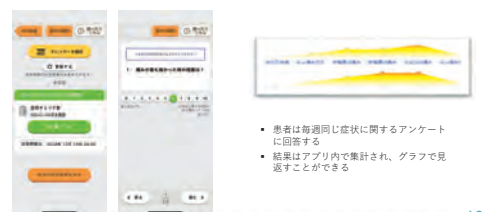
研究結果 アプリの活用状況

- 研究終了時に参加者に、アプリの活用状況・医療者とのやりとりへの影響をインタビューした。
- 参加者および医療者は、報告した内容が相互に共有されておらず、コミュニケーションの円滑には寄与していないと指摘した。
 - 肯定的な意見として、患者がアプリを活用して症状の自己管理を行っていたことが示された。患者は、自身の症状の変化をモニタリングし、過去の状態を振り返るとともに、今後の経過を予測する際にも活用していた。

09

10

実際のアプリ画面と結果確認画面



10

11

考察 今後に向けて

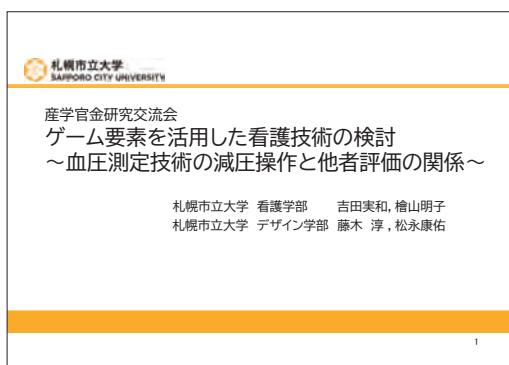
- アプリを使った症状報告は、頭頸部がん治療のように症状が重症化する場合にも、実施可能で受け入れられた
- 患者の自己モニタリングには役立つが、医療者とのやりとり改善には追加の仕組みが必要
- 今後は入力された症状を医療者がどう活用するか、患者主導でどのように設計するかを検討する必要がある

11

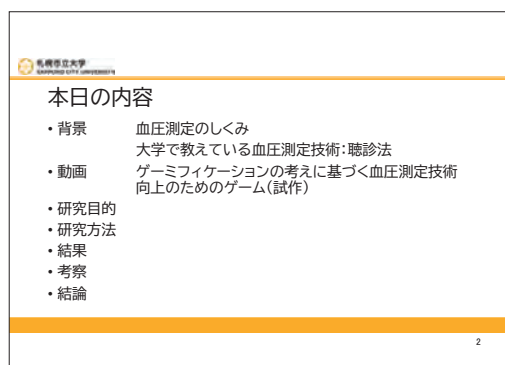
12

ゲーム要素を活用した看護技術の検討 ～血圧測定技術の減圧操作と他者評価の関係～

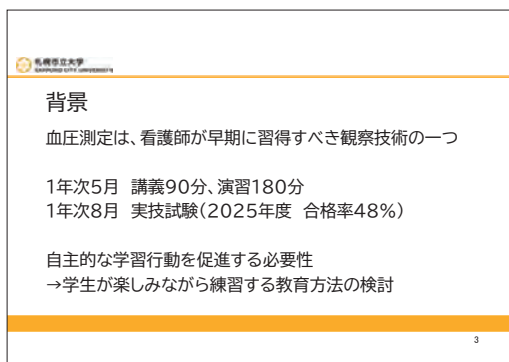
血圧測定は、聴診器で音を聴きながらねじを操作する必要があり、看護学生が短時間で修得するのは難しく、繰り返し練習が必要です。本研究では、減圧操作（ねじを操作し、一定の速さで空気を抜く）に着目し、デジタル教材で記録した減圧の速さと、教員による技術レベルの評価との関係を調べました。技術が高い学生ほど速さのばらつきが少なく、教材の測定値が評価に活用できる可能性が示されました。今後はゲーム要素を取り入れ、楽しく練習できる教材の開発をめざします。



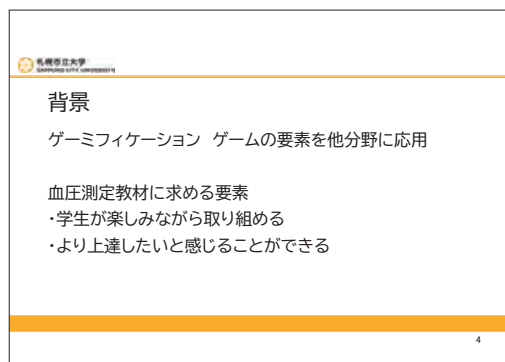
01



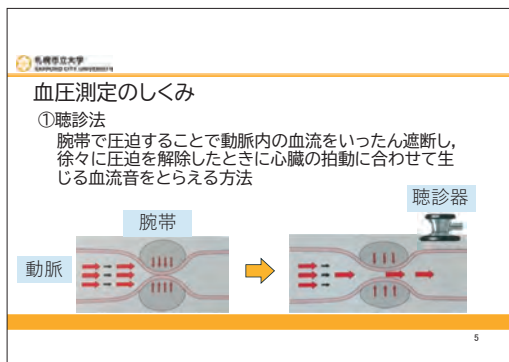
02



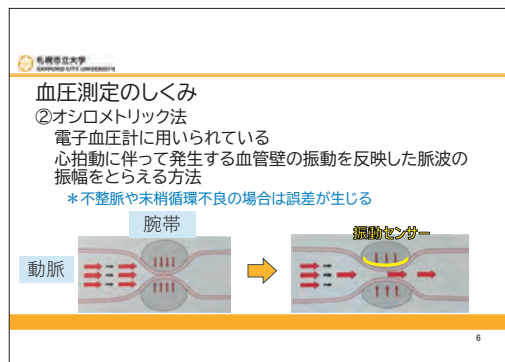
03



04



05



06

札幌医科大学
SAPPORO UNIVERSITY OF MEDICINE

聴診法による血圧測定

- ①上腕動脈を触知する
- ②腕帯を指が1-2本入る強さで巻く
- ③聴診器を動脈触知部位(肘の内側)にあてる
- ④送気球のねじを締め加圧し、腕帯に空気を入れる
- ⑤ねじを緩め、2mmHg/秒ずつ空気をぬく
- ⑥血管音を聞きながら、目盛りを読む



7

07

札幌医科大学
SAPPORO UNIVERSITY OF MEDICINE

開発の全体構想

- ゲーム画面と血圧測定(減圧操作)の調整→試作
- 試作システムの減圧操作と血圧測定技術の関連から妥当性を確認 (今回発表内容)
- 試作システムの教育効果の評価

8

08

札幌医科大学
SAPPORO UNIVERSITY OF MEDICINE

研究目的

開発中のデジタル教材システムに搭載された減圧速度の計測機能と、看護教員による血圧測定技術の評価との関連を明らかにし、教材の教育的有用性を検討すること

9

09

札幌医科大学
SAPPORO UNIVERSITY OF MEDICINE

研究方法

対象:血圧測定の授業を受けたことがある看護学生44名

システム環境に慣れるための練習 → システムを使用した血圧測定

評価指標

- システムによる減圧速度測定(減圧速度)
- 看護学教員による血圧測定全体の技術評価(技術スコア)



10

10

札幌医科大学
SAPPORO UNIVERSITY OF MEDICINE

分析方法:

- 減圧速度は減圧開始から送気球のねじ解放前までとし、平均速度および標準偏差を算出
- 減圧速度のばらつきは、減圧速度の標準偏差2回の平均を算出
- 技術スコアと減圧速度のばらつきの相関はSpearmanの順位相関検定を行った
- 技術評価の各項目と減圧速度のばらつきの比較はMann-Whitney検定を行った。
- 有意水準は5%、分析にはIBM SPSS Statistics ver.28を使用した

11

11

札幌医科大学
SAPPORO UNIVERSITY OF MEDICINE

結果

減圧速度ばらつき — 技術スコア 相関係数 $\rho = -.37$ ($p = .01$)

〈細項目の技術スコア(0点 vs 1点)による減圧速度の違い
~減圧速度に関連する技術を推定する〉

- ①マンシェットを巻く強さは指が2本入る程度で巻く($p = .015$)
- ②ふだんの収縮期血圧値から20-30mmHg多く加圧する($p = .004$)
- ③毎秒2mmHgで減圧する($p = .048$)

いずれも実施できた群の減圧速度のばらつきの範囲が小さかった

12

12

札幌医科大学
SAPPORO UNIVERSITY OF MEDICINE

考察

- 技術スコアが高いと減圧速度のばらつきは小さいことが示唆されたが、関連性は強くない
- 減圧速度データを減圧開始から設定したが、減圧開始時はねじ操作が安定しないことが関係している可能性がある
- ①マンシェットを適切な強さで巻く、②普段の収縮期血圧値から20-30mmHg多く加圧する、③毎秒2mmHgで減圧するについて実施できた対象者は減圧速度のばらつきが小さかったことから、巧緻性が高いと考えられる

13

13

札幌医科大学
SAPPORO UNIVERSITY OF MEDICINE

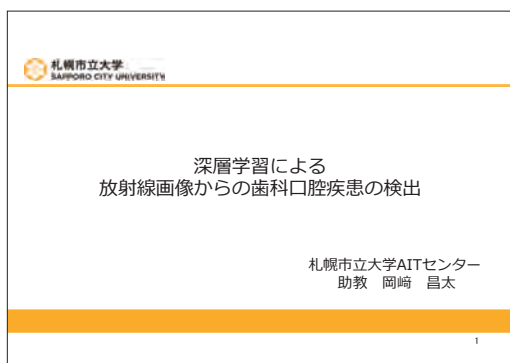
結論

- 教員による技術評価と教材システムによる減圧操作の計測値は合致していた
- デジタル教材システムで扱う減圧操作の計測値は、血圧測定技術評価の巧緻性が必要な技術に関係することが明らかとなった
- デジタル教材システムが血圧測定技術の評価に使用できる可能性が示唆された

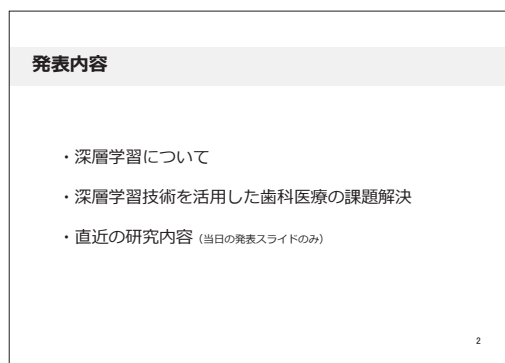
14

14

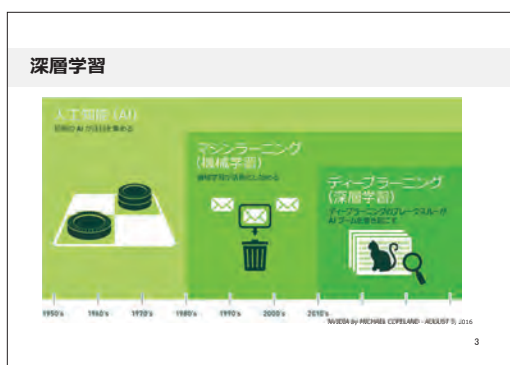
口腔の健康と全身の健康には関係があり、歯科口腔疾患の早期発見・早期治療は、生活の質の向上に寄与します。歯科口腔疾患の検出には、放射線画像を頻繁に使用しますが、単独の画像では検出が困難な疾患もあります。近年、人工知能の応用可能性が多くの分野で検討されています。そこで本研究では、人工知能の手法である深層学習を用いて、放射線画像から歯科口腔疾患の検出を支援する人工知能システムの実現可能性を検討しました。



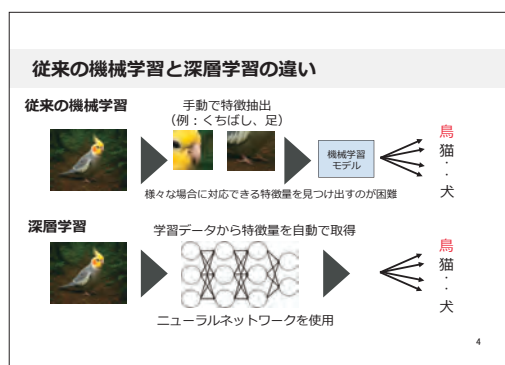
01



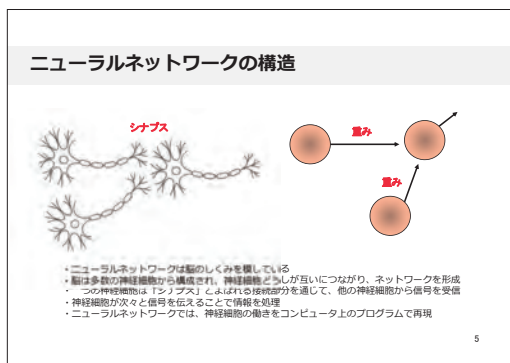
02



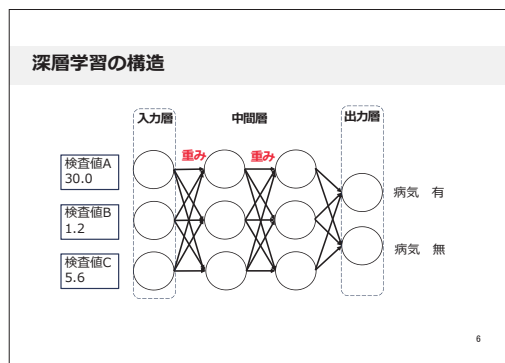
03



04



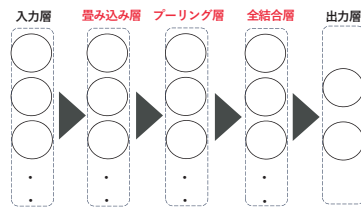
05



06

畳み込みニューラルネットワークの構造

画像認識において優れた性能を示すことが報告されている



7

07

畳み込みニューラルネットワークの構造

畳み込み層

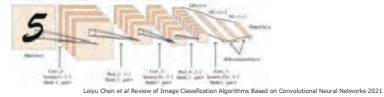
小さなフィルタで画像をスキャンし、形や模様などの特徴を検出

プーリング層

画像サイズを小さくして計算量を減らし、重要な特徴を保ちながら多少の位置ずれに対応できるようにする

全結合層

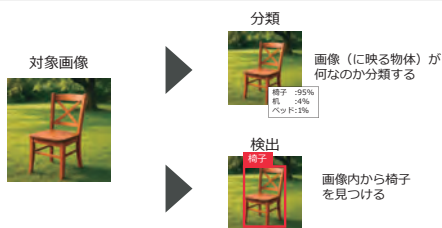
検出した特徴を組み合わせて最終的な判断（分類など）を行う



8

08

深層学習による画像解析



9

09

口腔・顎関節のイメージング

- ・口内法エックス線画像
- ・パノラマエックス線画像
- ・頭部エックス線規格画像
- ・コーンビームCT
- ・核磁気共鳴画像法 (MRI)

診断には欠かせないイメージングだが、画像取得から診断まで時間がかかる/習熟を要する

10

10

深層学習技術を活用した歯科医療の課題解決

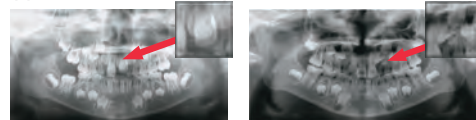
- ・画像分類を用いた歯数の異常の検査
- ・物体検出を用いた顎関節症診断支援（関節円板）
- ・分類・検出による下顎第三大臼歯の下顎管への接触判定
(当日の発表スライドのみ)

11

11

深層学習技術を活用した歯科医療の課題解決（分類）

画像分類を用いた歯数の異常の検査



過剰歯

パノラマエックス線画像（歯科医院に一般的に設置されている撮影装置）

歯牙腫

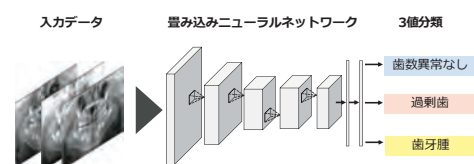
過剰歯・歯牙腫は小児患者に見られる歯数の発育異常の一つであり、小児の永久歯（大人の歯）の萌出が妨げられるため、早期診断と適切な治療が望まれる。混合歯列期（子供の歯と大人の歯が混ざっている）では、未萌出永久歯の存在のため、経験の浅い歯科医師にとって過剰歯・歯牙腫の発見が困難。

12

12

深層学習技術を活用した歯科医療の課題解決（分類）

画像分類を用いた歯数の異常の検査



13

13

深層学習技術を活用した歯科医療の課題解決（検出）

物体検出を用いた顎関節症診断支援（関節円板）



Jamelle M. Petriccioglu-Thomson et al. Unlocking the Jaw: Advanced Imaging of the Temporomandibular Joint 2014

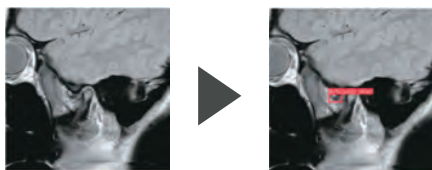
核磁気共鳴画像（MR画像）

14

14

深層学習技術を活用した歯科医療の課題解決（検出）

物体検出を用いた顎関節症診断支援（関節円板）



15

ポスター・展示発表一覧

【札幌市立大学】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
伊藤 健世	デザイン学部 教授	円山動物園モンキーハウスの来場者満足度向上を目指す取り組み
	齊藤 雅也(デザイン学部 教授) 吉田 彩乃(デザイン学部 助教)	
伊藤 健世	デザイン学部 教授	水素エネルギー活用ワールドカフェ ～「札幌市水素エネルギー基本方針」に基づき、札幌市と共同で水素エネルギー活用の理解促進を探るワークショップ～
	椎野 亜紀夫(デザイン学部 教授) 榊田 聡志(デザイン学部 助教)	
柿山 浩一郎	デザイン学部 教授	札幌市の路面電車(低床車両)ラッピング広告の認知度向上の検討
	佐藤 聖隆((一財)札幌市交通事業振興公社) 西田 宜孝((一財)札幌市交通事業振興公社) 竹田 典広((一財)札幌市交通事業振興公社) 佐藤 詩織((一財)札幌市交通事業振興公社)	
澤口 宙人	看護学部 助教	頭頸部がん患者によるスマートフォンを活用した症状報告 ～治療中の症状管理支援に向けた実装可能性研究～
	川村 三希子(看護学部 教授) 染谷 正則(札幌医科大学放射線医学講座) 土屋 高旭(札幌医科大学放射線医学講座) 長谷川 智一(札幌医科大学放射線医学講座) 北川 未央(札幌医科大学放射線医学講座) 後町 俊夫(札幌医科大学放射線医学講座) 團塚 恵子(札幌医科大学附属病院看護部)	
三谷 篤史	デザイン学部 教授	音声分析で口腔の機能を評価するシステムの基礎的検討
	村松 真澄(元札幌市立大学看護学部・現旭川市立大学) 高橋 尚人(AITセンター 教授) 遠藤 朱美(札幌秀友会病院)	
榊田 聡志	デザイン学部 助教	認知症啓発カードゲームの試作(札幌市立大学研究科連携科目 連携プロジェクト演習成果)
	高田 舞(札幌市立大学看護学研究科) 齋藤 美沙(札幌市立大学デザイン研究科) ※指導教員: 檜山 明子(看護学部 教授) 吉田 彩乃(デザイン学部 助教)	
吉田 実和	看護学部 助教	ゲーム要素を活用した看護技術の検討 ～血圧測定技術の減圧操作と他者評価の関係～
	檜山 明子(看護学部 教授) 藤木 淳(デザイン学部 教授) 松永 康佑(デザイン学部 講師)	
小林 重人	デザイン学部 准教授	山形県最上町におけるデジタル地域通貨Geneの開発と実証実験 ー地域経済・相互扶助・脱炭素をつなぐ地域内循環の試みー
	藤原 正幸(公立小松大学)	
並木 翔太郎	デザイン学部 准教授	大学生向けライフデザインワークショップのプロトタイプ制作
	矢久保 空遥(デザイン学部 助教) 榊田 聡志(デザイン学部 助教) 石井 雅博(デザイン学部 教授)	
並木 翔太郎	デザイン学部 准教授	国際交流事業促進支援事業のこれまでとこれから

石橋 佐枝子	看護学部 准教授	こころの困難を抱える子どもとご家族への支援 ～子どもの精神症状を早期に発見し、支援につなげるために～
原井 美佳	看護学部 准教授 橋本 茂樹(札幌溪仁会リハビリテーション病院) 細川 慶子(札幌溪仁会リハビリテーション病院) 中野 正剛(市立病院前老年内科メモリークリニック) 細川 善吉(医療法人聖愛会発寒リハビリテーション病院) 西脇 利恵(株Nハートネットワーク) 若井 亜矢子(札幌リハビリテーション専門学校) 小川 香織(株ナカジマ薬局) 相山 千晴(株なの花北海道なの花薬局)	認知症になっても住み続けることができる「わがまち桑園モデル」のための基礎調査 ー小学生保護者への質問紙調査ー
岡崎 昌太	AITセンター 助教 峯 裕一(広島大学大学院医系科学研究科 医療システム工学)	深層学習による放射線画像からの歯科口腔疾患の検出
藤沢 礼央	デザイン学部 講師	アートと仕方 ー苫小牧市立樽前小学校改築工事を事例にー
御手洗 洋蔵	デザイン学部 准教授 青木 優(元東京農業大学)	観葉植物の実物およびイミテーションに対する印象評価の比較
三戸部 純子	看護学部 講師	薬剤情報の差異検出の容易さに関する実験的検討 ー看護師と非医療従事者との比較ー

【北海道立総合研究機構】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
澤田 真由美	法人本部 経営管理部	北海道立総合研究機構の紹介
園木 詩織	釧路水産試験場	音で藻場の種類を調べる 音響計測と水中カメラ画像を用いた大型海藻の種判別モデルの開発
須賀 雅人	林産試験場	AIを用いた木質ボードの開発効率化技術の構築: パーティクルボードを対象に
齊藤 隆典	北方建築総合研究所	AIが見つける建物外壁の「劣化サイン」 ～外壁調査の新しいかたち～
川島 圭太	ものづくり支援センター 宮島 沙織(工業試験場) 吉田 道拓(工業試験場) 井川 久(工業試験場) 林 孝洋(京都大学農学研究科) 近藤 直(京都大学農学研究科)	AIと青色光を用いた高精度な抽苔人参判別手法の開発
山名 利一	中央農業試験場	AIでばれいしょのモザイク病を診断 自作可能な撮影装置と画像分類AIによる、ばれいしょの画像診断技術
安田 星季	工業試験場 印南 小冬(ものづくり支援センター) 大久保 京子(ものづくり支援センター) 高木 友史(ものづくり支援センター)	パッケージデザインへの生成AIおよびXR技術の適用

【北海道中小企業家同友会】

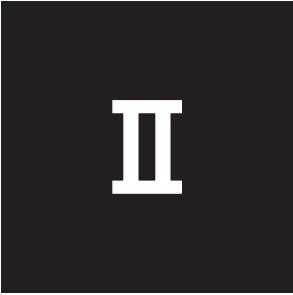
発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
竹内 康	(株)ライトン	“洗濯の困った”を解決する完全オーダーメイド洗剤の販売 ～洗剤×就労支援のビジネスモデルで洗剤価値を最大化する～
七戸 千絵	(株)The St Monica 歌志内市 産業課	「歌志内市とのブランド開発事業」～日本遺産「炭鉄港」認定と炭鉱の記憶と市の産物 温泉と親和性の高い石けんとクリームなどの保湿ケアを製造販売に基づくブランド事業～
中井 真太郎	蒸煮木質飼料生産・利用協議会 (株)エース・クリーン	森の木から生まれた地球に優しい粗飼料 産学官連携により事業化された地域資源循環の取組と見出された機能性
杉山 英実	(有)藤井牧場	「富良野未来開拓村」構想 酪農や地域の課題解決に取り組むための共創型酪農プラットフォームを構築

【北洋銀行】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
荒木 陽佑	公金・地域産業支援部	北洋銀行の農業者支援とワイン産業支援の取組み

【北海道医療福祉産業研究会】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
七戸 治	北海道医療福祉産業研究会	・医療福祉分野の器具・ICTの開発を産学官で支援 ・会員の多種多様な技術を活かして製品開発を進めます。



II

展示会等の参加

1. 「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2025」
(2025.7.23 アクセスサッポロ)
2. 第 39 回 北海道 技術・ビジネス交流会「ビジネス EXPO」
(2025.11.6～11.7 アクセスサッポロ)

「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2025」

2025.7.23 アクセスサッポロ

主催: 北洋銀行

Title 水素アシスト型自転車タクシー『PIONIE(ピオニエ)』の筐体デザイン開発

Author 梶田 聡志 デザイン学部 助教

Report 北海道のものづくり産業の振興を図ることを目的に「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2025」が7月23日(水)、札幌市白石区のアクセスサッポロで開催されました。

本フェアは北洋銀行主催の展示型商談会であり、2019 年まで開催していた「北洋銀行ものづくりテクノフェア」をリニューアルしたものです。本フェアでは、持続可能な社会の創造をテーマとし、ものづくり、環境/SDGs、IT/DX、知的財産、スタートアップ等の幅広い分野から150社・団体の出展がありました。また、約4,600名の来場があり、商談の成約や販路拡大につながる情報交換が活発に行われました。

(※一部大会主催者報告から抜粋)

本学からは、トヨタ自動車北海道株式会社との共同研究である「水素アシスト型自転車タクシー『PIONIE(ピオニエ)』の筐体デザイン開発」を展示し、共同研究者の梶田助教や梶田研究室の学生が、1/10 サイズの筐体モデルや展示パネルを使って研究内容の説明を行いました。

共同研究をしているトヨタ自動車北海道株式会社の関係者の方が多くブースに訪問があった他、筐体に関する水素缶を作る会社など、ものづくり関連企業のブース訪問者の割合が多く、研究への関心の高さが伺われました。

Image 出展ブース



展示の様子



第 39 回 北海道 技術・ビジネス交流会「ビジネスEXPO」

2025.11.6～11.7 アクセスサッポロ

主催：北海道 技術・ビジネス交流会実行委員会（事務局 ノーステック財団）
〔北海道経済産業局、北海道、札幌市、北海道経済連合会 他〕

Title

地域活性化のためのデジタル地域通貨（デザイン）
話し合う性教育を実践する教材—SH カード—（看護×デザイン）
フレイル予防のためのアナログゲーム（デザイン×看護）

Author

小林 重人 デザイン学部 准教授
市戸 優人 看護学部 准教授

Report

北海道の経済活性化や産業振興のため、新たなビジネスチャンスの創出を目指した北海道最大の展示会“ビジネスEXPO「第 39 回北海道技術・ビジネス交流会」”が 11 月 6 日（木）・7 日（金）の 2 日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで開催されました。

今年度は「大変革に挑む北海道～ポテンシャルを真価に変える”未来創造イノベーション”～」をテーマに開催され、企業・団体・大学・研究機関から合計 307 社・機関の出展、規模は 289 小間（ブース）となりました。例年の 5 ゾーンに加え、「未来創造ゾーン」には、「半導体」「データセンター」「生成 AI」「宇宙」「ゼロカーボン」「GX」など、これからの北海道を支えるテーマを集め、既存の発想にとらわれない新しいビジネスモデルが紹介されました。さらに、先端技術ゾーンでは「ロボット」や「陸上養殖」など、省力化や DX を進める最先端機器が並び、来場者に北海道の未来を感じさせる展示となり、大いに注目を集めました。2 日目は暴風雨やひょうが降る大荒れとなりましたが、昨年度から来場者は増加し、総来場者数は 21,632 名（2024 年度来場者総数 21,261 名）でした。

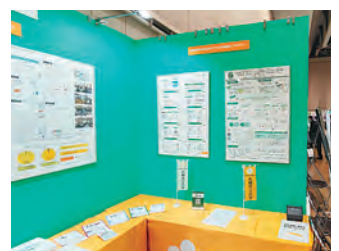
（※大会主催者報告より実績を抜粋）

今回の展示では、本学の「デザイン」と「看護」が連携した事例を多数紹介しました。特に、連携プロジェクト演習の成果物を展示するなど、研究だけでなく教育面についても発信する機会となり、本学の特徴を来場者に伝えることができました。来場者アンケートでは、「SH カード（話し合う性教育を実践する教材）が大変興味深かったです」「お口すこやかビンゴのスキームを高齢者の詐欺対策に応用して一緒に取り組めないかと感じた」「地域通貨の取り組みが興味深い」などのコメントが寄せられました。地域貢献に関心のある企業をはじめ、幅広い業種の来場者と交流し、展示を通じて本学の研究内容について知っていただくことができました。

また、本会場には企業見学や就職支援のため、道内の大学・高専・工業高校生を招待しており、インフルエンザ流行による影響もありましたが約 900 名が来場されました。本学ブースも学生の訪問を歓迎し、展示を通じて大学での学びの一端を紹介しました。

Image

出展ブース



展示の様子



札幌市立大学 地域産学連携協力依頼事業 -産学連携のご相談はお気軽に！！-

札幌市立大学 地域連携課

SCU※産学連携相談窓口

地域・産学連携にさらに積極的に取り組むため「SCU産学連携相談窓口」を開設しています。「研究・活動の内容を知りたい」「札幌市立大学との連携方法について知りたい」など、地域・産学連携に関する疑問・質問・ご要望がありましたら、気軽にご相談ください。ご来訪の際はあらかじめ電話またはメールにてご連絡をお願いいたします。

※SCU:SAPPORO CITY UNIVERSITY

本学の特長(DNA)

本学はD(デザイン)とN(看護)の両学部を併せ持つ大学です。その特長を生かし、両学問が連携・共同して「教育・研究・地域貢献」を行っています。さらに、2022年度にAI・ITを研究するAITセンターを設置しました。DとNによる両分野の連携をAI研究が下支えし、本学の異分野連携によってこそ可能になる、人々の暮らしや社会に新たな価値を創造する活動を実践しています。この連携をDNA (Design × Nursing × AI) と呼称しています。

事例

●NTT東日本札幌病院診察券デザイン募集 NTT東日本札幌病院



NTT東日本札幌病院様から、2022年に創立100周年を迎えたのを機に、診察券のデザインを刷新したいとのご相談を受け、デザイン制作を行いました。デザイン学部学生23名から59作品が集まり、その中から病院職員による審査で、3点の作品が選出されました。選出された3点の作品すべてが実際に採用されることになりました。患者様は好きなデザインを選択できます。

●「芸術・創造的な活動」及び「遊び」を通じた ウェルネス推進イベントの実施 札幌市保健福祉局



依頼団体と連携し、市民交流プラザSCARTS モールB、Cにてあそびイベントを実施しました。当該イベントは幅広い世代を対象としており、楽しみながら身体を動かすことや、運動習慣等の重要性に気づき将来にわたって実践するきっかけになることを目的としています。当日は2つのあそび場を設け、各々130人程の参加者が集まりました。

●札幌市制100周年記念花電車事業 札幌市総務局



札幌市制100周年記念事業の一つである花電車のデザイン制作をしました。デザイン学部2年生4名が参加し、その中から1名の学生の作品が採用されました。作品タイトルは「100周年のさっぽろ」で、札幌の歩みを新都市電車両で表現するとともに、モエレ沼公園、大倉山ジャンプ競技場をモチーフとし、背景に札幌を取り巻く山並みと大通公園の鮮やかな花壇を曲線で表現したものです。運行期間中、花電車が通ると、多くの人が足を止めて眺めたり、カメラで撮影をしていました。

●道民の179で彩る木彫りクマ NHK札幌放送局



NHK札幌様からご依頼をいただき、「木彫りのクマと旅するHokkaido」の展示作品を制作しました。道民の皆様が見つけた大好きな北海道の景色やステキな思い出をテーマに描いたクマの塗り絵や、景色の写真を募集し、本学デザイン学部の学生団体「きほんのきのかい」が、その集まった塗り絵や写真を用いたコラージュ木彫りクマを2体制作しました。1体は、長いフィルム風に加工した札幌市の風景写真でコラージュした「れたらん(アイヌ語での白、レタラより)」。もう1体は、写真一枚一枚を丸く切り抜き、ワインの原料であるぶどうの房に見立て帯広エリアの風景を表現した「ぶどうだべあ」です。作品は、NHK札幌口ビーで展示されました。

●ご相談はお気軽に

本学は、人間重視と地域社会への貢献という教育・研究の理念のもと、地域に根ざした大学として地域支援活動に積極的に取り組んでいます。地域の皆様や様々な組織の方々のご相談を積極的にお受けしておりますので、なにかご相談事がありましたら、下記までお気軽にご連絡ください。

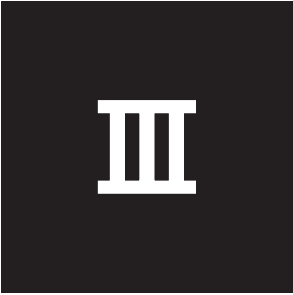
SCU産学連携相談窓口
(札幌市立大学事務局 地域連携課
地域連携担当)
〒005-0864
札幌市南区芸術の森1丁目
TEL:011-592-2346
FAX:011-592-2369
E-mail: crc@scu.ac.jp



人と向きあう、未来を創る。



SAPPORO CITY UNIVERSITY



III

地域連携・地域貢献活動

1. 公開講座開催
2. 受託研究
3. 共同研究
4. 地域貢献(地域産学連携協力依頼)
5. 研究支援地域連携センターのご案内

1. 公開講座開催

大学企画 公開講座

講座名	月日	演題名	講師
災害看護の基礎を学ぼう！（6回シリーズ）	第1回 2025/6/14（土）	災害看護の基本知識Part①	鬼塚 美玲（看護学部・准教授）
	第2回 2025/6/28（土）	災害看護の基本知識Part②	鬼塚 美玲（看護学部・准教授）
	第3回 2025/7/12（土）	もしもの時に備えよう—自分のこと、親のこと—	原井 美佳（看護学部・准教授）
	第4回 2025/7/26（土）	災害時におけるメンタルヘルスとそのケア	守村 洋（看護学部・准教授）
	第5回 2025/8/9（土）	地域における平時からの支援	市戸 優人（看護学部・准教授）
	第6回 2025/8/30（土）	災害から守りたい！子どものこころとからだ	牧田 靖子（看護学部・講師）
夏の避難生活から命を守るために 『避難所生活を体験してみよう！』	2025/7/5（土）	避難所生活を体験してみよう！	鬼塚 美玲（看護学部・准教授） 市戸 優人（看護学部・准教授）
命を守ろう！夏の避難生活における健康リスクと健康管理	2025/8/2（土）	夏の避難生活における健康リスクと健康管理	鬼塚 美玲（看護学部・准教授）
厳冬の地震災害への備えはできていますか？ 「寒冷環境・雪環境下の災害看護活動で知っておくべきリスクと備え」	2025/12/6（土）	厳冬期の地震災害への備えはできていますか？ 「寒冷環境・雪環境下の災害看護活動で知っておくべきリスクと備え」	鬼塚 美玲（看護学部・准教授） 尾立 篤子（東邦大学健康科学部看護学科・教授、元陸上自衛隊看護官）
積雪寒冷期の地震災害への備えはできていますか？避難生活で起こり得るリスクと必要な備え	2025/12/20（土）	積雪寒冷期の地震災害への備えはできていますか？避難生活で起こり得るリスクと必要な備え	鬼塚 美玲（看護学部・准教授）
厳冬の避難所を体験してみよう！	2026/1/31（土）	厳冬の避難所を体験してみよう！	鬼塚 美玲（看護学部・准教授） 市戸 優人（看護学部・准教授）
札幌市立大学ミニ出張講座	第1回 2025/8/28（木）	子どもにおこりやすい事故とその予防/心肺蘇生法・窒息解除法	牧田 靖子（看護学部・講師）
	第2回 2026/2/10（火）	子どもにおこりやすい事故とその予防/心肺蘇生法・窒息解除法	牧田 靖子（看護学部・講師）
2025年度 精神保健看護学領域教育セミナー ～教員同士で学び合う参加型講座～	2026/1/31（土）	2025年度 精神保健看護学領域教育セミナー ～教員同士で学び合う参加型講座～	渋谷 友紀（看護学部・助教） 守村 洋（看護学部・准教授）
札幌芸術の森 自然観察会	2025/4/29 （火・祝）	札幌芸術の森 自然観察会	椎野 亜紀夫（デザイン学部・教授）
子ども向けワークショップ「アートにであう」	2025/6/21（土）	子ども向けワークショップ「アートにであう」	細谷 多聞（デザイン学部・教授） 小宮 加容子（デザイン学部・准教授） 藤沢 礼央（デザイン学部・講師） 吉田 彩乃（デザイン学部・助教）

メカトロ教室「走れ！ロボットカー！」	2025/6/14(土)	メカトロ教室「走れ！ロボットカー！」	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
テセレーションって知ってる？ ～平面を図形で埋め尽くしてみよう！～	2025/11/8(土)	テセレーションって知ってる？ ～平面を図形で埋め尽くしてみよう！～	大淵 一博(デザイン学部・講師)
ロボツール活用術 ～「Microsoft365」活用できてますか？～	2025/11/8(土)	ロボツール活用術 ～「Microsoft365」活用できてますか？～	大淵 一博(デザイン学部・講師) 吉田 彩乃(デザイン学部・助教)
マイコンレーサー講習会	第1回 2025/10/5(日)	マイコンレーサー初級編	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
	第2回 2025/11/23(日)	第9回マイコンレーサー北海道大会	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
現場で役立つ呼吸ケア ～呼吸の観察力と判断力を磨こう～	2025/11/29(土)	呼吸の観察力と判断力を磨く	本多 いづみ(看護学部・助教) 檜山 明子(看護学部・教授)
日常のコミュニケーションをスムーズにする方法を考える(遠隔コミュニケーションツールの開発の視点から)	2025/11/1(土)	日常のコミュニケーションをスムーズにする方法を考える(遠隔コミュニケーションツールの開発の視点から)	柿山 浩一郎(デザイン学部・教授)
となりのユニバーサルデザインシリーズ	第1話 2025/11/6(木)	となりのユニバーサルデザインシリーズ 第1話「ユニバーサルデザインのあゆみ」	酒井 正幸(札幌市立大学・名誉教授)
	第2話 2025/11/13(木)	となりのユニバーサルデザインシリーズ 第2話「人に伝えるためのユニバーサルデザイン」	柿山 浩一郎(デザイン学部・教授)
	第3話 2025/11/20(木)	となりのユニバーサルデザインシリーズ 第3話「遊びのユニバーサルデザイン」	小宮 加容子(デザイン学部・准教授)
	第4話 2025/11/26(水)	となりのユニバーサルデザインシリーズ 第4話「ユニバーサルデザインとユーザーの心理」	伊藤 健世(デザイン学部・教授)
めんどくさいを乗り越える！人生100年時代のための野菜摂取	第1回 2025/9/13(土)	めんどくさいを乗り越える！人生100年時代のための野菜摂取	並木 翔太郎(デザイン学部・准教授) 矢久保 空遥(デザイン学部・助教)
	第2回 2025/9/14(日)	めんどくさいを乗り越える！人生100年時代のための野菜摂取	並木 翔太郎(デザイン学部・准教授) 矢久保 空遥(デザイン学部・助教)
こころの健康講座～やさしく学ぶメンタルヘルス～	第1回 2025/11/1(土)	やさしく学ぶメンタルヘルス：こころの健康を守るために	渋谷 友紀(看護学部・助教)
	第2回 2025/11/15(土)	対話による社会的処方とこころの健康づくり	石橋 佐枝子(看護学部・准教授)
	第3回 2025/12/6(土)	気分障害を学んでこころの健康づくりを考える	守村 洋(看護学部・准教授)
学びのヒント、暮らしにプラス	2025/12/20(土)	学びのヒント、暮らしにプラス	中平 紗貴子(看護学部・講師) 檜山 明子(看護学部・教授)
目標設定は”自分を動かすスイッチ”になる	2026/1/31(土)	目標設定は”自分を動かすスイッチ”になる	中平 紗貴子(看護学部・講師) 檜山 明子(看護学部・教授)
自殺対策強化月間企画「もし死にたいって言われたらどうしますか？」	2026/3/7(土)	自殺対策強化月間企画「もし死にたいって言われたらどうしますか？」	守村 洋(看護学部・准教授)

まちをデザインしよう！	第1回 2026/2/7(土)	ドクターが提案する「ゆる～い安心の場づくり」	片山 めぐみ(デザイン学部・准教授) 舩森 悠(勤医協札幌病院総合診療科・医師)
	第2回 2026/3/21(土)	人もネコも幸せなまちづくり	片山 めぐみ(デザイン学部・准教授) 千寺丸 洋(苫小牧市社会福祉協議会・地域福祉課長・総合支援室長)
「車いす介助ってむずかしい？」 ～体験で学ぶやさしい技術～	2026/3/14(土)	「車いす介助ってむずかしい？」 ～体験で学ぶやさしい技術～	吉田 実和(看護学部・助教) 中平 紗貴子(看護学部・講師) 檜山 明子(看護学部・教授) 本多 いづみ(看護学部・助教)
健康チェック&アドバイス ～測定と相談で始める健康習慣～	2026/2/14(土)	健康チェック&アドバイス ～測定と相談で始める健康習慣～	本多 いづみ(看護学部・助教) 吉田 実和(看護学部・助教) 中平 紗貴子(看護学部・講師) 檜山 明子(看護学部・教授)
北海道におけるデザイン実践	2026/3/26(木)	北海道におけるデザイン実践	細谷 多聞(デザイン学部・教授)

北海道立総合研究機構との共催講座：「知活(ちいき)ゼミナール」

講座名	月日	演題名	講師
知活ゼミナール2025 「森の恵み～守る役割、木のものづくり～」	2025/10/4(土)	講義1:道総研「持続的な防風林管理を考える」-強風から人と野生動植物の暮らしを守る知恵- 講義2:「北海道で使う建築材料を、北海道の木材から作る」という事について考える-地域経済からみた利点-	講義1 速水 将人(林業試験場森林環境部環境G・主査) 講義2 古俣 寛隆(デザイン学部・准教授)

2. 受託研究

No.	研究名称	委託者	期間	研究代表者・共同研究者
1	第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 「ソーシャルアクティビティ」スペースのデザイン	一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会	2025年1月16日 ～2025年6月30日	片山 めぐみ(デザイン学部・准教授) 檜山 明子(看護学部・教授)
2	水素エネルギー活用に関する効果的な情報発信デザイン研究	札幌市	2025年5月12日 ～2026年2月20日	椎野 亜紀夫(デザイン学部・教授) 伊藤 健世(デザイン学部・教授) 柘田 聡志(デザイン学部・助教)
3	製材工場採算性評価ツールの開発	株式会社 共和キカイ	2025年4月28日 ～2025年12月31日	古俣 寛隆(デザイン学部・准教授)
4	令和7年度南区アートシーズン春「はるのあしあと」における子ども向けワークショップ(実験)の開催	札幌市	2025年5月9日 ～2025年6月14日	細谷 多聞(デザイン学部・教授) 小宮 加容子(デザイン学部・准教授)
5	モンキーハウス来場者満足向上と展示デザインの提案	札幌市	2025年7月30日 ～2026年3月31日	伊藤 健世(デザイン学部・教授) 齊藤 雅也(デザイン学部・教授) 吉田 彩乃(デザイン学部・助教)
6	北海道産動物の生息・飼育・展示環境の総合デザイン研究	札幌市	2025年7月30日 ～2026年3月31日	大島 卓(デザイン学部・准教授)

3. 共同研究

No.	研究名称	申込者	期間	本学研究担当者
1	ビッグデータを活用した凍結路面対策の評価に関する研究	山田技研 株式会社	2024年10月1日 ～2026年3月31日	高橋 尚人(AITセンター・教授)
2	教育動画に効果的な動画の研究	三菱電機 株式会社 統合デザイン研究所	2025年4月1日 ～2026年3月31日	柿山 浩一郎(デザイン学部・教授)
3	救急需要予測に基づく救急搬送体制整備に関する研究	札幌市消防局	2025年4月28日 ～2026年3月31日	高橋 尚人(AITセンター・教授)
4	原子力施設の廃止措置におけるジェネラティビティに関する測定及び評価における基礎研究	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構	2025年5月1日 ～2026年3月20日	小林 重人(デザイン学部・准教授)
5	深層学習を用いた交通量調査に関する研究	株式会社 メイセイ・エンジニアリング	2025年6月18日 ～2026年3月31日	高橋 尚人(AITセンター・教授)
6	「アルミ遮熱ボード」設置窓による夏季の室内気候と熱的快適性の改善	株式会社 ケアコム	2025年6月20日 ～2026年3月31日	齊藤 雅也(デザイン学部・教授)

7	タスクアンビエントー体型制気口の寒冷地庁舎での快適性評価と省エネルギー効果の検証	大成建設 株式会社	2025年10月27日 ～2026年3月31日	齊藤 雅也(デザイン学部・教授)
8	Senyaman Rimbaプロジェクト(森のような心地よさが得られる室内気候のデザイン研究)	ピーエス 株式会社	2025年9月25日 ～2026年3月31日	齊藤 雅也(デザイン学部・教授)
9	生活世界の断片から自立共生の未来社会を構想する社会的デザインリサーチ手法の研究～北海道むかわ町におけるランプリングデザイン運動を事例として～	株式会社 日立製作所	2025年10月17日 ～2027年3月31日	横溝 賢(デザイン学部・准教授)
10	自転車タクシーのデザイン	トヨタ自動車北海道 株式会社	2025年10月16日 ～2026年3月31日	榎田 聡志(デザイン学部・助教)
11	札幌丘珠空港ターミナルビルの混雑緩和に向けた調査研究	札幌市 札幌丘珠空港ビル 株式会社	2025年10月20日 ～2026年3月31日	高橋 尚人(AITセンター・教授)
12	設備装置のユーザビリティ向上の研究	東京エレクトロン 株式会社	2025年12月22日 ～2026年3月31日	柿山 浩一郎(デザイン学部・教授)
13	空港における物体検出・物体追跡の活用に関する研究	北海道エアポート 株式会社	2025年10月16日 ～2026年3月31日	高橋 尚人(AITセンター・教授)

4. 地域貢献(地域産学連携協力依頼)

研究支援地域連携センターへの協力依頼一覧(2025年度)

No	依頼名称	依頼元	対応
1	健康見える化機器を用いた行動変容促進事業	札幌市 市長 秋元 克広	矢久保 空遥(デザイン学部・助教) 並木 翔太郎(デザイン学部・准教授) 石井 雅博(デザイン学部・教授)
2	札幌市グリーティングカード作成事業	札幌市総務局 国際部長 蒸野 直樹	大淵 一博(デザイン学部・講師)
3	ショップバッグデザインコンペ	株式会社土屋ホームトピア 代表取締役 菊地 英也	矢久保 空遥(デザイン学部・助教)
4	札幌らしい珈琲文化の発展を促す多角的デザイン提案	有限会社いらい珈琲 取締役 岩井 貴幸	福田 大年(デザイン学部・准教授)
5	「へんしん！かがく屋台」への作品展示協力	札幌青少年科学館 館長 西川 英一	藤木 淳(デザイン学部・教授)

6	第8回いきいき健康塾	幌加内町 町長 細川 雅弘	原井 美佳(看護学部・准教授) 近藤 圭子(看護学部・助教) 齊藤 雅也(デザイン学部・教授) 大淵 一博(デザイン学部・講師)
7	冬みち便りデザインの制作事業	札幌市 市長 秋元 克広	大島 卓(デザイン学部・准教授)
8	500m美術館vol.52「北海道美術学生選抜展」	有限会社 クンスト 代表取締役 佐野 由美子	藤沢 礼央(デザイン学部・講師)
9	札幌市養護教員会南ブロック研修会	札幌市養護教員会南ブロック ブロック幹事 草野 沙耶香	福田 大年(デザイン学部・准教授)
10	第31回 芸術の森地区文化祭(ポスター制作協力)	芸術の森地区連合会 会長 下総 仁志	大島 卓(デザイン学部・准教授)
11	第31回 芸術の森地区文化祭(展示協力)	芸術の森地区連合会 会長 下総 仁志	大島 卓(デザイン学部・准教授)
12	一般財団法人さっぽろ産業振興財団支援企業を対象にした課題の見える化(可視化)のアドバイス	一般財団法人 さっぽろ産業振興財団 佐藤 賢次	福田 大年(デザイン学部・准教授)
13	NoMaps KIDS 遊べるアート制作「踊らさりゅう」	こどもカンパニー 株式会社 代表取締役 渡辺 和寛	細谷 多聞(デザイン学部・教授) 小宮 加容子(デザイン学部・准教授)
14	Global Study活動 探究型修学旅行	大分県立大分上野丘高等学校 校長 三浦 一雄	金子 晋也(デザイン学部・准教授)
15	廃タイヤSDGsアートワークショップ「さっぽろダンロップアトリエ」	株式会社 ダンロップタイヤ 北海道カンパニー企画管理グループ長 瀬高 康司	細谷 多聞(デザイン学部・教授) 小宮 加容子(デザイン学部・准教授)
16	MAISON & HOTEL +○#今# vol.3	北海道文化マテリアル協議会 代表 高瀬 季里子	藤沢 礼央(デザイン学部・講師)
17	探求テーマ検討への指導・助言	市立札幌旭丘高等学校 数理データサイエンス科 学科長 坂庭 康仁	高橋 尚人(AITセンター・教授) 高橋 茶子(AITセンター・准教授) 岡崎 昌太(AITセンター・助教)
18	さっぽろアートステージ「University Student Art Competition」	有限会社 クンスト 代表取締役 佐野 由美子	藤沢 礼央(デザイン学部・講師)
19	持続可能なまちづくりに貢献するイベントの企画・開催	駒岡ハイトラスト 株式会社 現場総括責任者 吉岡 哲也	細谷 多聞(デザイン学部・教授) 小宮 加容子(デザイン学部・准教授)

20	藤野雪あかりの小路 広報用キャラクターデザイン制作	藤野地区町内会連合会 吉田 健治	石井 雅博(デザイン学部・教授)
21	冬の「雪あかり」イベントPRチラシの制作事業	札幌市南区 区長 大谷 聡美	大淵 一博(デザイン学部・講師)
22	南区の魅力をPRする啓発品製作事業	札幌市南区 区長 大谷 聡美	大淵 一博(デザイン学部・講師)
23	一般財団法人札幌市スポーツ協会 教室事業ブランドプロモーション動画制作協力	一般財団法人 札幌市スポーツ協会 理事長 鈴木 和弥	福田 大年(デザイン学部・准教授)
24	広報さっぽろ南区版表紙デザイン事業	札幌市南区 区長 大谷 聡美	大淵 一博(デザイン学部・講師)
25	看護師リクルートパンフレットの制作	医療法人溪仁会 定山溪病院 院長 中西 克彦	武富 貴久子(看護学部・准教授) 松永 康佑(デザイン学部・講師)
26	南区の魅力をPRする啓発品製作事業	札幌市南区 区長 大谷 聡美	大淵 一博(デザイン学部・講師)

2. 札幌市グリーティングカード作成事業

札幌市が国内外に発送するグリーティングカードをデザインする事業に、デザイン学部1～3年生10名が参加しました。

応募作品は札幌市総務局国際部職員らによる審査会が行われ、1年の佐藤由芽さんの作品が採用され、12月には市役所で記念品贈呈式が行われました。カードには市長、副市長の署名が入れられ、12月上旬にドイツ・ミュンヘンなど海外の姉妹都市29カ国や在札外国公館などに約500通が発送されました。

また、応募されたすべての作品は2026年1月に、さっぽろ地下街オーロラタウンで開催された「ワールドグリーティングカード展」にて展示され、市民に広く公開されました。



5. 「へんしん！かがく屋台」への作品展示協力

札幌市青少年科学館からの協力依頼により、本学デザイン学部 藤木 淳教授の作品『3D View-dependent Color』が、2025年7月26日から8月24日に開催された同館の令和7年度夏の特別展「へんしん！かがく屋台」に展示されました。

展示作品は、視線方向によって表面色を変化させる研究成果「3D View-dependent Color」に関する立体作品3点（人型、球型、アクリル球を外した球型）で、「きらきら！色を変えてみよう」と題した屋台風のブースに展示され、子どもたちは、いろいろな方向から作品を見て色が変わる不思議を体験しました。



6. 第8回いきいき健康塾

幌加内町で開催された「いきいき健康塾」は、2016年度から継続して行われている高齢者向け健康啓発イベントです。交通の便が限られる地域において、年に一度顔を合わせて語り合う貴重な憩いの場になっています。2023年度からは幌加内町が主催し、本学からは看護学部とデザイン学部の学生・教員が運営に協力しました。

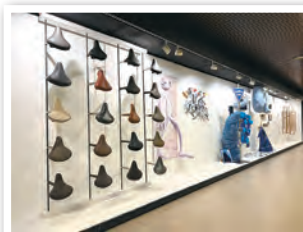
プログラムでは、体組成測定や診療所医師による講話に加え、アクティビティとして、「ハロウィーンかぼちゃと衣装を作ろう！」を実施し、健康づくりをテーマに、皆さんが笑顔で交流できる貴重な時間となりました。



8. 500 m美術館 vol.52「北海道美術学生選抜展」

札幌大通地下ギャラリー 500m 美術館において、北海道で美術を学ぶ学生の作品発表と交流の場を創出することを目的に『500 m美術館 vol.52「北海道美術学生選抜展」』が開催（2025 年 11 月 15 日～2026 年 1 月 7 日）され、デザイン研究科及びデザイン学部の学生 14 名が作品を出展しました。

この選抜展は、500m 美術館の幅 12m のガラスケース 8 基のうち、1 校につき 1 ケースを使用して、計 8 校がグループ展形式で作品を展示し、約 60 名の学生が参加しており、次世代を担う学生が自身の作品について言葉で伝えることや他校の学生との交流を深める大変良い機会となりました。



9. 札幌市養護教員会南ブロック研修会

最近の小中学校で指導の際にデジタル資料を用いることが多くなり、資料づくりに悩む教員も増えていきます。デザイン学部の福田准教授は、児童・生徒が見たくなる指導資料づくりを考える講演とワークショップを、保健指導資料の作成に悩む養護教諭に向けて 2025 年 9 月 1 日に実施しました。

本研修会は、札幌市養護教員会南ブロックが企画・実施したものです。当日は、約 20 名の養護教諭が参加しました。前半でビジュアル・コミュニケーションのコツを考え、後半は実際に Chromebook を使って指導資料の更新版を作成してみるグループワークと講評会をしました。参加者からは「伝えたい対象や自分は何を伝えたいのか、より深く考えるきっかけになりました」、「グループで改善点を交流して直すことで、短時間で見やすく分かりやすいものになった」、「参考にできるものが気付けば自分の周りにたくさんあることに気づかされました」などの感想が寄せられました。



10. 11. 第 31 回 芸術の森地区文化祭（ポスター制作協力、展示協力）

豊かな自然と芸術文化的環境に恵まれた芸術の森地区では、住民による日々の文化活動が活発に行われており、その成果の発表の場として「第 31 回 芸術の森地区文化祭」(2025 年 10 月 4 日、5 日) が行われました。本学の学生にも昨年に続き協力依頼があり、広報用ポスターは本学デザイン研究科の来田玲子さんがデザインしました。

また、6 年ぶりに開催会場が工芸館に戻り、広々とした空間のもと、小中大学を含む 10 団体と、地域に住む 20 名の方が個人で作品を出展し、2 日間で 463 名の来場者が観覧しに訪れました。本学が展示した屋上緑化活動のパネルの前でも多くの方が足を止めていただき、活動内容を知ってもらうことができました。



12. 一般財団法人さっぽろ産業振興財団支援企業を対象にした課題の見える化（可視化）のアドバイス



一般財団法人さっぽろ産業振興財団が支援する地域のものづくり企業3社が抱える課題を、デザイン学部人間情報デザインコースの学生3名（相澤巡さん、尾崎大輔さん、高田優さん）がグラフィックレコーディング（以下グラレコ）で可視化するワークショップを5回実施しました。

グラレコで話し合いを可視化したことで、各社の事業方針の共通性を見つけ出すことができ、2025年11月6～7日に開催された北海道ビジネスEXPOの共同出展のアイデアとデザインに活かされ

ました。当日は、熊被害が軽減するために3社が力を合わせてできることが一目で分かる展示が、企業と学生の協働によって実現しました。その結果、多くの来場者が訪れるだけでなく、地方TV局数社が取材するような反響を生み出すことができました。学生たちがデザインの学びで培った思考過程の可視化能力が、企業や地域の取り組みに活かせる可能性が体感できる取り組みとなりました。

14. Global Study 活動 探究型修学旅行

2025年12月5日、大分県立大分上野丘高等学校の皆さん（生徒20名、引率教員1名）が、本学芸術の森キャンパスに来訪されました。同校のGlobal Study活動における探究型修学旅行の一環として行われたもので、大学での学びを体験することを目的としています。

事前学習として、デザイン学部の金子准教授が『札幌芸術の森』周辺における地域資源を活用した大学キャンパスの「リ・デザイン」をテーマに地域特性に関するレクチャーを行いました。生徒の皆さんは、芸術の森キャンパス周辺の地域資源について調査を行い、訪問当日の現地調査も踏まえて提案の発表となりました。なかには、地域の動物や札幌軟石を運搬していた馬そりをモチーフとするなど、地域の自然や歴史にまで踏み込んだ提案も見られました。また、本学大学院デザイン研究科の東野紗来さん、石山陸人さんも同様の課題に取り組み、上野丘高校の皆さんの前でプレゼンテーションを行いました。あわせて、「デザイン総合実習Ⅳ」を履修する学部3年生2名も見学し、課題を通じて高校生と交流する様子が見られました。



15. 廃タイヤ SDGs アートワークショップ「さっぽろダンロップアトリエ」



2025年8月29日に札幌市立盤溪小学校2年生(20名)を対象に、廃タイヤを使用したアートワークショップを実施しました。フロタージュ技法を用いてタイヤの凹凸を紙に写し取り、その紙を用いてアート作品「タイヤカエル」を制作し、11月13日～11月26日に札幌市役所1階ロビーにて展示を行いました。

この活動は、デザインの基礎を実践的に学ぶ場である「きほんのきのかい」の活動としてたいへん貴重な体験となり、今後、学生それぞれが自身の専門性に活かしていくことが期待される機会となりました。

16. 「MAISON de HOTEL +〇#今#」 vol. 3

2025年11月6日～8日の3日間、北海道文化マテリアル協議会主催の「MAISON de HOTEL +〇#今#」に、「めぐり、やどる」と題して、デザイン学部及びデザイン研究科の学生7人が制作した、栗山町の古民家古材を活用した作品を展示しました。ホテルの1フロア14室をメゾン（店）として開放し、道産木材やエゾシカ革など北海道産の素材を使ったクラフト作品や製品の展示・販売を行うイベントで、今回が3回目。今年は、丸井今井札幌本店大通館との2会場で、北海道の素材をより身近に体験できるワークショップやトークイベント等も、併せて開催されました。

北海道素材についての理解や木材循環・環境循環など喫緊の課題を企業・団体とともに取り組むことができ、研究・教育への効果が期待できる貴重な機会となりました。



18. さっぽろアートステージ「University Student Art Competition」

2025年で21回目を迎える「さっぽろアートステージ」のイベントの一つとして SCARTS 会場にて行われた「University Student Art Competition」にデザイン研究科博士前期課程1年の川守田花さんの作品が出品されました。「University Student Art Competition」は、札幌市内のデザイン系、美術系大学6校から多様なジャンル芸術作品6作品が展示されました。川守田さんの出展は「蛹」。作品の発案、制作、展示、公開までを経験することで学生の経験値向上、教員は卒業研究指導へ活かすことができる重要な機会となりました。



21. 冬の「雪あかり」イベント PR チラシの制作事業

札幌市南区内の各地区で開催される「雪あかり」イベントを広報するチラシを製作する事業において、デザイン学部人間情報デザインコース2年の竹中千夏さんの作品が採用されました。デザインは、総合実習1（人間情報デザインコース）の授業課題（南区のブランディングデザイン）で提出された学生作品の中から、南区地域振興課の審査により選出されたもので、課題提出作品を調整してチラシを完成させました。

チラシは2,500枚印刷され、南区役所やまちづくりセンター、真駒内駅、地下歩行空間などで配布されました。



22. 南区の魅力を PR する啓発品製作事業

札幌市南区の魅力を PR する啓発品として、紙製ファイルのデザインを制作する事業が行われました。紙製ファイルの元デザインには、総合実習1（人間情報デザインコース）の授業課題（南区のブランディングデザイン）で提出された学生作品の中から、札幌市南区地域振興課の審査により、人間情報デザインコース2年の藤本夢叶さんの作品が採用されました。この作品は授業課題で制作したデザインを啓発品用にアレンジして最終デザインを行いました。完成した紙製ファイルは、札幌市南区地域振興課が主催するイベント等で市民に無料配布される予定です。



23. 一般財団法人札幌市スポーツ協会 教室事業ブランドプロモーション動画制作協力

一般財団法人 札幌市スポーツ協会からの地域産学連携協力の依頼を受け、2026年にリニューアルされたスポーツ & フィットネス教室事業「SASPO（サスポ）」のブランドプロモーション動画のショート動画を本学学生が制作しました。

デザイン学部人間情報デザインコースの相澤巡さん、尾崎大輔さん、高田優さんが、SASPOのブランドプロモーション動画を制作した地元のデザイン企業の「スポーツと学びの研究所」という取り組みに参加し、企画・撮影・編集に携わり、プロモーション動画をもとにSNSでの発信を目的とした15秒の縦型ショート動画を再制作しました。

企業や地域の取り組みと大学での学びがつながる可能性を体感できる取り組みとなりました。

SASPO ホームページ
<https://www.sapporo-sport.jp/saspo/>



縦型ショート動画のリンク
<https://www.instagram.com/p/DXqV03Ug0kR/>



24. 広報さっぽろ南区版表紙デザイン事業

札幌市南区の魅力を PR するため、「デザイン総合実習Ⅰ・南区役所のブランディングとデザイン」で制作した「南区をイメージしたロゴマーク」を使い、広報さっぽろ南区版令和7年5月号～令和8年4月号の表紙ページ（ヘッダ部分）を学生がデザインしました。

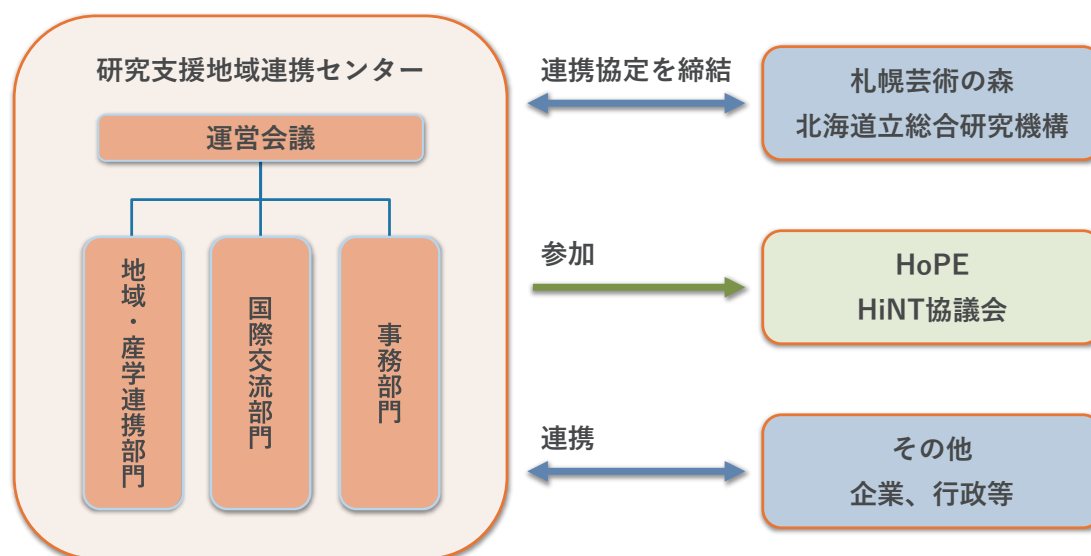


5. 研究支援地域連携センターのご案内

研究支援地域連携センターは、2007 年 4 月に本学における研究活動、地域貢献活動及び国内外のネットワークの形成推進を図ることを目的に設置されました。センターでは以下の業務を担当しています。

- 1) 研究費、研究成果の公表等研究活動の推進に関する事項
- 2) 共同研究・受託研究、研究に係る寄付金等外部資金に関する事項
- 3) 市民講座等地域貢献に関する事項
- 4) サテライトキャンパスの活用に関する事項
- 5) 産学官金連携に関する事項
- 6) 国際交流その他の国内外のネットワークに関する事項
- 7) 知的財産に関する事項

研究支援地域連携センターは設置者である札幌市との連携のほか、「札幌芸術の森」や「北海道立総合研究機構」と連携協定を締結し、さらに北海道中小企業家同友会産学連携研究会（HoPE）や R&B パーク札幌大通サテライト（HiNT）運営協議会に参加して産学官金連携・地域連携に取り組んでいます。



【研究支援地域連携センターにおける社会との連携・協力に関する方針】

- 1 地域に資する研究の推進に加え、その研究成果を還元し、本学の持てる知的資源を活用するために、公開講座等を通じて、地域社会の人材育成、専門職の継続教育を推進する。
- 2 本学の構成員が、地域社会、産業界あるいは地方自治体等行政と連携をすることにより、本学が地域社会に果たすべき役割を積極的に担うことを支援する。
- 3 日本にとどまらず、アジア及び世界に視野を向け、協働し、本学の教育及び研究の交流を更に発展させることを支援する。

SCU 産学官金連携相談窓口

研究支援地域連携センターでは、産学官金連携・地域連携にさらに積極的に取り組むため「SCU 産学官金連携相談窓口」を開設しています。こんな時、ぜひお気軽にご相談ください。

研究・活動の内容を知りたい／札幌市立大学との連携方法について知りたい
教員を紹介してほしい／公開講座の行事等について知りたい など…

ご来訪の折にはご面倒でもあらかじめ電話またはメールにてご連絡をお願いいたします。
日時と場所をご相談させていただき、下記いずれかのキャンパスで承ります。

お問い合わせ・連絡先 札幌市立大学 地域連携課 地域・産学連携担当

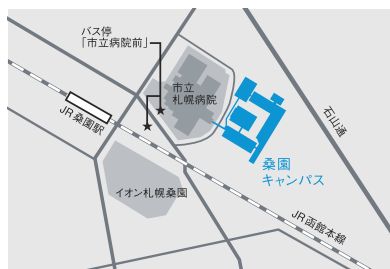
〒005-0864 札幌市南区芸術の森 1 丁目

TEL : 011-592-2346 FAX : 011-592-2369 E-mail : crc@scu.ac.jp



1. 芸術の森キャンパス

場所 札幌市立大学 芸術の森キャンパス
〒005-0864 札幌市南区芸術の森 1 丁目
Tel 011-592-2300 (代表)



2. 桑園キャンパス

場所 札幌市立大学 桑園キャンパス
〒060-0011 札幌市中央区北 11 条西 13 丁目
Tel 011-726-2500 (代表)



3. サテライトキャンパス

場所 札幌市立大学 サテライトキャンパスキャンパス
〒060-0004 札幌市中央区北 4 条西 5 丁目アスティ 45 ビル 12 階
Tel 011-218-7500

4. AIT センター

場所 札幌市立大学 AIT センター
〒060-0004 札幌市中央区南 1 条西 6 丁目 20-1 ジョブキタビル 9 階
Tel 011-218-7500

札幌市立大学 研究・活動事例集 2026

編 集 札幌市立大学研究支援地域連携センター

発行日 2026（令和8）年7月15日

発 行 札幌市立大学研究支援地域連携センター

〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目

TEL.011-592-2346

FAX.011-592-2369

<https://www.scu.ac.jp>

E-mail:crc@ scu.ac.jp



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

大学本部・デザイン学部・デザイン研究科
芸術の森キャンパス：005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
TEL. 011-592-2300

看護学部・看護学研究科・看護学専攻科
桑園キャンパス：060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目
TEL. 011-726-2500